

経営（事業）計画書

令和4年度（第49期）



社会福祉法人さつき会

法人の経営理念(願うこと)

『私たちは、社会福祉事業を通して地域社会・住民にとってなくてはならない存在であり続ける。』

(趣旨)

社会福祉法人さつき会は、地域や施設において『尊厳にみちた環境で人としてごく当たり前の生活を保障されるべき高齢者』に対して、常に高齢者の立場に立った良質高度な高齢者福祉サービスを提供し、地域から、社会から愛され、信頼される事業主体になることを目指すこと。

法人の使命(果たすこと)

『高齢者の自立した尊厳ある、人間らしい生活を守る』

法人のビジョン(目指すこと)

- 一 自分が入りたいと思える施設をつくる
- 一 自分が住みたいと思える地域をつくる
- 一 自分と仲間が働きやすく働きがいのある職場をつくる

法人の介護理念(大切にすること)

- 一 人間尊重
一人ひとりをかけがえのない人間として大切にします
- 一 当事者主体
その人の人生や生活の主体は、相手にあることを大切にします
- 一 利用者本位
常に相手の身になり、相手の立場に立って考え行動することを大切にします

社 是(求められること)

自立(自律) 信頼 創造

一 自立(自律)

自ら考え、自ら判断し、自らの良心と社会的規範に従い行動し、決定する。その結果について自ら責任を持つ。職員一人ひとりが自立(自律)の心を真に理解し、育み、持てる力を十分に発揮することによって、法人の発展と自己実現の達成に結びつけていくことを目指すものである。

一 信頼

法人の持続的な発展のためには、職員相互の信頼関係を大切にし、サービス・活動を通して顧客満足度をより一層高め、お客様の信頼を得ることです。

一 創造

経営は創造であり、各職員一人ひとりが常に進取の心を養い、自己啓発を進め、知恵と創意と工夫によって優れた介護の技法を創造するとともに、職員の力を結集して豊かで安心できる高齢社会に貢献し得る介護サービスを創出していくことである。

社 訓(心がけること)

1. 常に主体性をもって行動します。

私たちは、自らの置かれた境遇や立場や状況を他人や私たちを取り囲むもののせいにするのではなく、先ず、その中で自分たちに何ができるかを考え行動します。

2. 常にお客様の身になって行動します。

私たちは、お客様を大切にします。ご利用者・お客様のニーズの把握に努め、具体的な内容として居室の清潔性、同居者との相性、入浴回数、食事内容、食事時間、職員の対応等種々多様に考えられます。それらのニーズに即応した良質な介護サービスが提供できるよう介護技術の専門性を磨き、気配りし、利用者・お客様に満足していただけるようお客様の身になって行動します。

3. 常に目的をもち計画的に行動します。

私たちは、計画、目的、反省、改善のないところには進歩はあり得ないことを肝に銘じ、計画・実践・反省評価のサイクルを全ての業務・活動の原則とし、1日・1週間・1か月・1年の単位において計画し、最終の姿(目的)を描いてから行動します。

4. 常に人を理解してから、理解されるよう努めます。

私たちは、自分たちのことを理解してもらおうとする前に、相手の言い分を十分理解しようと努めます。

5. 常に人と人との交わりの中で、相乗効果を発揮するよう努めます。

私たちは、自分の考えと異なる考えを柔軟に受け入れ、相違点を尊び、お互いのいいところは認め伸ばし、弱いところは合い補いながら、相乗効果が発揮されるよう努めます。

6. 常に重要事項を優先するよう、心がけます。

私たちは、日々の活動の中で、緊急ではないが、重要なことを意識的にスケジュール化して活動します。日々の学習であったり、将来を見据えた若手職員の育成であったり、つまり長いスパンで物事を考えた場合に重要なことをさします。

7. 常に相手と自分が共に満足する結果が得られることを考えて行動します。

私たちは、皆のために十二分な結果が得られることを信じ、自分だけの満足だけではなく、相手(時には顧客であり、上司であり、部下であり、同僚であり、協力者である)の満足を考え、双方にとって有益で満足のいく結果をめざします。

8. 常に自分自身を研ぐ努力をします。

私たちは、自分たちの生活において、肉体的・知的・社会的・情緒的・精神的に自分のもっている能力を維持し、伸ばすための時間を意識してつくります。

第6次＜2022-2024＞ さつき会中期経営3か年計画(基本方針・職場目標・重点目標・重点事項)

基本方針

『良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る』

全事業所職場目標

『一人ひとりの成長、チームの力、ICTを活用し、ケア・サービスの質向上と職場環境改善を図る』

1. 多様な人材採用・次世代経営幹部候補育成・中核人材育成と安心・希望を持ち長く働ける職場環境の整備		2. 業務の可視化による効率化と介護ロボット・ICT等の活用による職場環境改善		3. 利用者・家族・地域住民の健康・生きがいがいつくりと良質高度なチームケア(サービス)の提供		4. 適性利益の確保と内部統制の強化	
(人材育成)		(業務改善)		(利用者・家族・地域へのサービス)		(業績・財務)	
多様な人材(外国人・アクティブシニア等)の採用と働き方の支援	- 生活アシスタントの養成・採用・定着と介護の入門的研修の実施 - 外国人介護福祉人材の確保・<u>定着・育成の体制づくり</u> - 社会福祉士養成校からの実習受入の<u>拡充と人材育成</u> - 新たな就業時間・雇用形態についての検討と<u>制度化</u> <u>次世代経営幹部候補の育成</u>	社内業務の可視化・基準化・標準化によるムリ・ムラ・ムダのない業務体制構築	- 自分の仕事と業務プロセスの見える化の推進(全職員) - 見える化された後の部門毎によるムダ取り・偏り改善の推進	施設・在宅における自立支援・中重度化対応・重症化予防の取り組み強化	- おとしよりと職員の笑顔が増える暮らし・楽しみづくり <u>最新の科学的根拠に基づく、介護・看護、看護・医療の連携強化</u> - 施設・在宅部門におけるトータルケアの強化	在宅サービスの利用者数の増加と稼働率向上	<u>団塊世代ニーズに応える魅力</u>ある事業所づくり - 短期・通所・訪問の旭川市への市場拡大 - 特養・GH待機者の確保 - 町内の潜在ニーズの掘り起こし、効果的なPR、地域包括支援センターとの連携強化
さつき会のより良い未来を牽引する中核人材(ネクストリーダー・幹部候補)の育成	- ネクストリーダー研修会の実施 - 総合職・専任職の仕事の明確化	介護ロボット・ICT・IOT活用による業務省力化・情報連携推進	<u>新介護情報システムの活用による業務の合理化・効率化</u> - 目的と期待効果を明確にした介護ロボット・<u>ノーリフティングケア</u>の導入の研究・試用	住民参加による元気創り・生涯活躍の場づくり	<u>日常的に施設運営に参加・協力するボランティアの確保と育成</u> - 住民参加型介護予防事業の充実 - 各事業所の地域交流スペース等の有効活用	事業所毎の実行性ある予算管理	- 事業所毎による予算管理 - 財政健全化推進チームの活性化
職員の成長とレベルアップを図るための施策の充実	- 階層別研修教育プログラムの作成 - チャレンジ・公募による研修・委員会活動の推進 - 面談制度の見直し - 介護力向上研修の強化・充実	将来を見据えた人員配置の見直しと最適化	- 業務の仕分けと専門職・非専門職の定数配置の見直し - 人事異動・<u>課内配置転換(ジョブローテーション)</u>の定期化	安心・快適な居住環境整の整備と防災対策の推進	<u>事業継続計画(BCP)の策定と研修</u> <u>鷹栖さつき苑の改修・改築・増床等の基本構想の策定</u> <u>職員による地域貢献活動の拡充</u> - 中期修繕計画の策定	既存事業の強化・拡張及び新規事業開発の検討	- 各種加算の取得 - 鷹栖地区高齢者住宅・サービス拠点の検討(統廃合含む) - 混合介護・独自事業等の検討・試行
安心と希望を持ち長く働ける職場環境の整備	- メンタルヘルスに関わる研修の企画と実施 - 有給休暇の取得推進 - キャリアパスと給与制度の見直し						

1 第6次中期経営3か年計画 基本方針

『良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る』

2 令和4年度 全事業所職場目標

『一人ひとりの成長、チームの力、ICTを活用し、ケア・サービスの質向上と職場環境改善を図る』

【一人ひとりの成長】

さつき会の持続的発展は、一人ひとりの職員の存在と成長なくしてあり得ない。一方、人の成長は、「これでいい」と思った瞬間や、「忙しい・無理・大変」という言葉を発することで、自らの思考が鈍化したり、考えることをやめた瞬間に止まるとも言われている。職業人としてプロ意識を持ち、謙虚に周囲の意見に耳を傾け自己を振り返り、前向きな思考と向上心を持って、業務推進と改善活動に努める。

【チームの力】

人間は弱く、脆く、時に失敗や過ちを犯す生き物でもある。自分の強み・持ち味を最大限に生かし、短所や弱点は互いに補い合い、互いの成長を刺激し合いながら、相乗効果でチームの力を高めて、個人では実現できない目標や価値をチーム全体で創りだすことに努める。

【ICTの活用】

利用者の真のニーズはどこにあるのか、福祉介護従事者が社会から求められていることはなにか、そういった課題に向き合うには一定の時間が必要である。さらに、新たな試みや挑戦をするには、情報収集する、考える、人と意見を交わし合う、計画するなど一定の時間が必要である。「ケア・サービスの質向上と職場環境改善を図る」ためにICT・介護ロボット・OA機器を大いに活用して、業務の効率化・生産性向上に努める。

3 令和4年度 事業活動のポイント

(1) 多様な人材採用・次世代経営幹部候補育成・中核人材育成と安心・希望を持ち長く働ける職場環境の整備

- ① プロフェッショナルな介護従事者の安定確保を図るため、外国人介護福祉人材の確保を図り、令和4年度からさつき会に入職する外国人技能実習生と定着・育成の支援体制づくりに着手する。
- ② アクティブシニアの就労・生涯活躍と介護の仕事のイメージチェンジを図るため、鷹栖町との連携による「介護の入門的研修」の実施

及び介護以外の仕事を担当する「ケアアシスタント」の採用及び定着支援を推進する。

- ③ 新規学卒者及び転職者希望者を対象とした、合同企業説明会に参加するとともに、法人独自の入社説明会・インターシップを開催する。また、若手職員を巻き込みながらSNS・オンラインによる法人の魅力発信を日常化し、LINE・オンライン等による求職者からの質問・申込みに対応する。
- ④ さつき会の持続的発展と組織風土の活性化を図るため、経営者と対等な視野・視座・視点を養い、「ケア（サービス）・人材・チーム・財務・情報・地域」をマネジメントできる次世代経営幹部候補の育成を図る。
- ⑤ さつき会の経営理念・ビジョンに共鳴・共感し、さつき会をより良くするために、主体性を持って行動する中核職員を育成するために「さつき会の未来を創るネクストリーダー研修会」を実施する。
- ⑥ 利用者本位の福祉・介護サービスを担う人材を育成するための教育プログラムを階層別く新任職員（入社時研修・フォローアップ研修）、総合職研修、専門職研修、専任職研修、リーダー研修、管理者研修、経営職研修に体系化し、年間計画をもとに定期的な研修を実施する。
- ⑦ 定期面談において部下が考える不安や悩みを聞き、安心して働けるようサポートする。また、部下が考える目標、上司が期待する目標を相互に確認した上で、その期の個人目標を設定し、部下・上司ともに成長の機会とする。令和3年度は、一般職2級を除く常勤全職員が実施する。
- ⑧ 対人援助による感情労働の職種が多い事業特性を踏まえて、メンタルヘルス研修の実施、有給休暇・リフレッシュ休暇の取得推進を通じて、安心と希望を持ち長く働ける職場環境の整備を図る。
- ⑨ 「介護職員処遇改善加算」「特定介護職員等処遇改善加算」「介護職員処遇改善支援補助金」を活用し、一定の経験と資格と技能を有する者、指導的役割を担う介護職員、介護職員以外の職員等に対して処遇改善を図るとともに、キャリアパスと給与制度の見直しに着手する。

(2) 介護ロボット・ICT・ノーリフティングケア等の活用と業務の可視化による職場環境改善

- ① 介護従事者の事務・記録作業の軽減・科学的介護の推進・職員間の

コミュニケーション活性化・介護従事者の魅力の向上を図るために新介護情報システムを活用し、業務の合理化・効率化を推進する。

- ② 組織横断的な「ICT推進プロジェクトチーム」を常置し、職員への効果的な情報提供、タブレット端末・パソコンなどの電子機器の活用を推進する。
- ③ 介護ロボット・ノーリフティングケア等を調査・研究、導入・試用・活用を通じて、転倒・転落リスクの減少、職員の腰痛予防対策など、利用者と職員ともに安全・安心なケアを提供する。
- ④ 有限の職員体制においてサービスの質の維持・向上を図るために、全ての職員が「仕事の見える化」（業務の可視化）を行い、業務の効率化と改善の基礎資料を作成する。

(3) **利用者・家族・地域住民の健康・生きがいづくりと良質高度なチームケア（サービス）の提供**

- ① ケアの仕事の原点は、利用者の笑顔と元気が見られることである。短時間でも効果のあるアクティビティを取り入れ、利用者と職員がともに笑顔になれる時間を意図的・計画的につくり、それらをケアの仕事で得られる魅力として、アクティビティ委員会・若手職員等が中心となりながらSNSを活用し定期的に発信する。
- ② 全ての介護職・看護職・医療職は、高齢者ケアに関わる基礎原理と最新理論を学習・共有し、科学的裏付けに基づいたケアを実践する。
- ③ 施設・在宅部門において、トータルケアシステム（多職種協同による重度化対応・重症化介護予防の仕組み）を運用し、最適化したケアの提供と重症化予防に務め、できるだけ最期まで鷹栖町内で穏やかで笑顔のある暮らしを支援する。
- ④ 自立度の高い方から嚥下・摂食障害のある方まで、「より美味しく、より安全に食べることを実現するため、介護・看護・栄養・調理員、委託業者が一体的になり食事サービスの質向上を図るとともに、適正な予算の下に給食サービス業務が行われるよう業務の効率化・省人化を図る。
- ⑤ 鷹栖町内で高齢者介護に関わる情報と知識・技術を一番持っている強みを生かし、職員が地域へ出向き介護講座やサロン（地域の茶の間）の開催や、地域の集会などへ積極的に参加することで地域との交流を図る。その活動により地域住民に「高齢期における健康・介護リスクと予防法」についての理解を深めていただくと共に、職員自身が地域を知り地域を学び安心できる地域づくりの貢献を図る。

- ⑥ 施設のマンパワーだけで利用者の暮らしを豊かにする、災害時の安全を守ることは困難を要するため、地域住民やボランティアを利用者のQOL向上（生活の質向上）を図るための「協力者」として、更なる意見・協力を得て共に活動する。
- ⑦ 施設が平常時から災害時まで、安心・快適に暮らせる場となるために、施設設備や環境のプライバシー・快適性・安全性・居住性を十分配慮し、定期的なチェックとメンテナンスを遂行する。
- ⑧ 今後、特別養護老人ホーム鷹栖さつき苑が、さらなる安全性・快適性と施設機能の向上を図るとともに、法人が健全かつ安定した経営を維持していくために必要となる改築・増床等の基本構想の策定に着手する。

(4) 適性利益の確保と内部統制の強化

- ① 居宅・通所・訪問・小規模・短期入所の在宅サービスは、前期高齢者の需要増が見込まれる事業である。団塊世代のニーズを満たす魅力ある事業所づくりと新規利用者獲得のための町内外の地域機関・医療機関への営業・PR活動を拡充し、利用者数の増加と稼働率向上を図る。
- ② 社会福祉法人は、公益性の高い法人であり法令遵守、不正防止、組織統治、業務の効率化が要求されている。「人に仕事がつくのではなく、仕事に人がつくようになる」ために、ルール（マニュアル、手順書、チェックリスト）を整備し、業務の標準化を図る。
- ③ 部門間の人事異動及び課内の配置転換（ジョブローテーション）を積極的に実施し、職員の能力開発・部門間の連携推進と業務の属人化防止を図る。
- ④ 各事業所に部門計画・活動計画の達成と適正収支差額（事業活動収支差額10%）を確保するために、各課長が予算管理（①計画と編成、②予算に基づく執行、③予算・実績の差異分析と評価、④改善活動への提案と実行）を実施する。
- ⑤ 全事業所において収益向上、及び収支改善を図り、法人全体の事業活動収入（委託費・補助金・雑収入除く）の10%を事業活動収支差額 72,728千円 に掲げ、その運営管理（マネジメント）をつかさどる月次業績検討会議の活性化を図る。
- ⑥ サービス需要及び業績に見合った要員計画を検討し、職員の適正配置、事業運営の効率化等を図ることにより安定した経営基盤の構築に取り組む。

- ⑦ いかなる環境下においても、全ての事業所において「良いケア・良い職場・良い経営」の実現を図り維持するため、その羅針盤となる第6次中期経営3か年計画の推進に努める。

3 計数計画（事業活動収入）

単位:千円

事業所	令和3年度 決算見込	令和4年度 当初予算	差異	予算上の 積算根拠	業績管理上の 目標値
法人本部	6,866	7,823	957		
特養ホーム鷹栖さつき苑	217,185	218,300	1,115	稼働率96%	稼働率98%
ショートステイ	33,486	32,785	-701	稼働率85%	稼働率92%
デイセンターさつき苑	62,277	62,324	47	1日平均23.9名	1日平均25名
介護センター	25,491	27,504	2,013	利用者平均187名	利用者平均187名
GHなごみの家	87,284	85,835	-1,449	稼働率97%	稼働率98%
SHなごみの家	60,756	58,495	-2,261	登録者平均22.5名	登録者平均24.0名
特養ホームぬくもりの家えん	107,296	104,152	-3,144	稼働率97%	稼働率98%
SHぬくもりの家えん	63,470	63,517	47	登録者平均23.5名	登録者平均24.0名
サービス付き高齢者向け住宅 ぬくもりの家たかほ	27,425	27,508	83	稼働率95%(17.1名)	稼働率97%(17.4名)
ヘルパーステーション	38,711	39,771	1,059	月間訪問902件	月間訪問910件
地域介護予防活動支援事業	4,634	4,326	-308		
地域リハビリテーション活動支援事業	1,060	1,321	261		
介護予防普及啓発事業	4,303	4,230	-73		
認知症総合支援事業	5	148	143		
地域交流スペース運営事業	1,207	1,274	67		
合計	741,458	739,315	-2,142		

4 第6次中期経營業績計画

事業所名	<u>6次計画</u>	<u>令和 4年度</u>	<u>令和 5年度</u>	<u>令和 6年度</u>
	<u>5次実績</u>	<u>令和 元年度</u>	<u>令和 2年度</u>	<u>令和 3年度</u>
特養ホームさつき苑稼働率	<u>6次計画</u>	<u>98.0%</u>	<u>98.0%</u>	<u>98.0%</u>
	<u>5次実績</u>	<u>94.6%</u>	<u>97.4%</u>	<u>98.5%</u>
ショートステイ稼働率	<u>6次計画</u>	<u>95.0%</u>	<u>95.0%</u>	<u>95.0%</u>
	<u>5次実績</u>	<u>80.8%</u>	<u>90.2%</u>	<u>82.9%</u>
デイセンター1日平均利用者	<u>6次計画</u>	<u>25人</u>	<u>26人</u>	<u>27人</u>
	<u>5次実績</u>	<u>22.9人</u>	<u>23.9人</u>	<u>22.6人</u>
介護センター年間平均利用者実人数	<u>6次計画</u>	<u>187人</u>	<u>190人</u>	<u>193人</u>
	<u>5次実績</u>	<u>138人</u>	<u>170人</u>	<u>182人</u>
グループホーム稼働率	<u>6次計画</u>	<u>98.0%</u>	<u>98.0%</u>	<u>98.0%</u>
	<u>5次実績</u>	<u>98.3%</u>	<u>98.5%</u>	<u>97.2%</u>
小規模多機能なごみの家 年間平均登録者人数	<u>6次計画</u>	<u>24人</u>	<u>24人</u>	<u>24人</u>
	<u>5次実績</u>	<u>21.8人</u>	<u>22.7人</u>	<u>24.3人</u>
特養ホームぬくもりの家えん稼働率	<u>6次計画</u>	<u>98.0%</u>	<u>98.0%</u>	<u>98.0%</u>
	<u>5次実績</u>	<u>97.0%</u>	<u>99.4%</u>	<u>97.8%</u>
小規模多機能ぬくもりの家えん 年間平均登録者人数	<u>6次計画</u>	<u>24人</u>	<u>24人</u>	<u>24人</u>
	<u>5次実績</u>	<u>24.3人</u>	<u>23.5人</u>	<u>24.9人</u>
サービス付き高齢者向け住宅稼働率	<u>6次計画</u>	<u>94.0%</u>	<u>94.0%</u>	<u>94.0%</u>
	<u>5次実績</u>	<u>98.6%</u>	<u>94.9%</u>	<u>98.0%</u>
ヘルパーステーション 月間延べ訪問回数	<u>6次計画</u>	<u>910回</u>	<u>920回</u>	<u>930回</u>
	<u>5次実績</u>	<u>839回</u>	<u>909回</u>	<u>874回</u>

5 組織機構

別紙1「組織機構図」のとおり

6 要員計画

期首人員 161名（正職90名、嘱託1名、パート70名）

期末人員 158名（正職88名、嘱託1名、パート69名）

（1）大学・短大・専門学校からの新規学卒者の採用や0名（募集はしたが応募0名）。

（2）令和4年4月1日付けで、常勤介護職員2名（中途採用1名、パート職

員からの転換 1 名）を採用する。

(3)外国人技能実習生を常勤介護職員として年度内に 3 名新規採用予定。

(4)新たな雇用として「限定正職員」制度を導入し、パート職員からの登用を実施する。

(5)職員一人ひとりの成長と顕在化していない能力の発現を期待して、積極的に事業所間の異動・研修交流を進める。

(6)法人全体の目標離職率を 5%以下とする。

7 部門別事業計画書

別紙 2「事業計画書（部門計画）」のとおり

8 年間行事・研修予定

別紙 3「令和 4 年度 行事・研修予定表」のとおり

9 収支予算書

別紙 4「資金収支予算書（当初）」「事業活動計算書（当初）」のとおり



事業所名(部署)	法人本部
----------	------

1. 基本方針

『良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る』

2. 重点目標

- (1) 職員の成長を実感できる研修の運営。
- (2) 外国人スタッフが安心して地域に住み働くことができる環境をつくる。
- (3) 働きやすく、魅力ある職場づくりと多様なリクルート活動の展開。
- (4) 介護ロボット・ICTの活用により生産性と介護の質を向上する。
- (5) 非常災害時で事業を継続的に運営できる計画と体制づくり。

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主 査	補 佐
1	(1)	職員の成長とレベルアップを図るための研修計画の実施と資格の一元管理。	①社内研修の計画・実施・管理。 ②基礎介護力向上研修の振り返りと内容の見直す。 ③人材育成システムを活用した職員研修・資格管理。	①②継続 ③新規	尾上	①③本部 ②基礎介護力向上委員会委員
2	(2)	外国人人材の受入れ及び定着を支援する。	①外国人スタッフの日常生活と仕事をサポートするための外国人サポートチーム(B-Pro)の運営。 ②介護福祉士試験サポート ③技能実習生の受入・安心サポート	①②継続 ③新規	尾上	本部 B-pro メンバー
3	(3)	リクルート・広報活動の充実・推進。	①SNS(LINE、ブログ、FB)の新規開設・運用・管理に関すること。 ②ホームページの運用・リニューアルに関すること。 ③多様な求人活動の展開・実施(オンライン就職説明会の開催、インターンシップの受入れ、法人内就職相談窓口の設置、オリジナルグッズ製作など)	新規	尾上	木幡課長
4	(3)	働きやすい職場づくりと法人のブランディング戦略推進。	①働きやすい職場づくりと法人のブランディング戦略の推進(自法人の強みや特性を可視化し、認定資格の取得などにより企業価値を高める) ②福利厚生の実施(ソウエルクラブの活用促進)	新規	尾上	本部
5	(4)	介護ロボット・ICTの推進により業務の効率化と生産性の向上。	①新介護情報システムの運用 ②最新のICT機器の情報収集と導入と活用促進、効果検証 ③スタッフのデジタルリテラシーの向上 ④科学的介護推進システム(LIFE)運用の統括と支援。 ⑤LINEWORKSの運用・管理。 ⑥NASからクラウドストレージへの移行。	継続	尾上	各管理者 lproメンバー

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標 との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主 査	補 佐
6	(5)	災害・感染症の業務継続計画(BCP)の策定。	災害・感染症の業務継続計画(BCP)の策定し令和5年度から運用する。	新規	尾上	各課長 総務課

令和4年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 法人本部

〔評価基準〕S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どりの結果 C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 №	重点目標 との連動	取組み事項	取組み内容	実施 担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間 評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール (達成目標)	最終 評価	評価内容	
1	(1)	職員の成長とレベルアップを図るための研修計画の策定・実施と資格の一元管理。	①社内研修の計画・実施・管理。 ②基礎介護力向上研修の振り返りと内容を見直す。	尾上	計画	新任職員研修 基礎介護力向上 研修担当者会議①	年間研修計画作成 新任リーダー研修 総合職昇格試験	新任総合職研修 ケアマネ試験対策 講座	基礎介護力向上 研修担当者会議②		基礎介護力向上 研修(トランス ファー)		基礎介護力向上 研修(食事)	総合職昇格試験 ② 基礎介護力向上 研修(排せつ)	新任総合職研修 基礎介護力向上 研修(上級)①	基礎介護力向上 研修(医療)	基礎介護力向上 研修(認知症)	基礎介護力向上 研修(上級)②	研修計画の策定と計画に基づいた研修の実施。 基礎介護力向上研修の見直し 人材育成システムによる研修・資格情報管理。			
			実務																			
			計画	資格関連研修の 確認	システム操作確認 ①～介護支援専門 員受検申し込み 社会福祉士試験受験	システム操作確認 ケアマネ試験受験 対策講座	研修予定・実施情 報の入力	①～介護福祉士 受検申し込み 社会福祉士受検 申し込み	社会福祉士受験 対策講座	介護支援専門員 実務研修受講試験	介護支援専門員 実務研修受講試験 合格発表	介護福祉士 国家試験(筆記)	社会福祉士 国家試験	介護福祉士 合格発表	介護支援専門員、介護資格、管理者関連 資格など法定上必要とされる資格・研修を 一元管理し、もれなく、計画的に資格の取得 ができるようにする。							
			実務																			
2	(2)	外国人人材の受入れ及び定着を支援する。	①外国人スタッフの日常生活と仕事をサポートするための外国人サポートチーム(B-Pro)の運営。 ・生活支援 ・交流やイベント参加 ②介護福祉士試験サポート ③技能実習生の受入・安心サポート	尾上	計画	日本語能力試験 ①申し込み 買い物サポート B-Pro会議①	買い物サポート B-Pro会議②	買い物サポート B-Pro会議③ (交流会について)	買い物サポート B-Pro会議④ (交流会について)	買い物サポート 外国人スタッフとの 交流会	買い物サポート 日本語能力試験 ②申し込み B-Pro会議④		福寿祭参加 買い物サポート 買い物サポート B-Pro会議⑤	日本語能力試験 ② 買い物サポート	介護福祉士国家 試験 買い物サポート B-Pro会議⑥ (新年度採用スタッフの受入れについて)	買い物サポート 冬のイベント	買い物サポート 新採用スタッフ引 越し(東川1名) B-Pro会議⑦	・B-Proの運営。 ・外国人スタッフが安心して生活し働くことができる。 ・交流イベントの実施。 ・技能実習生の受入等サポート				
			実務																			
			計画	・外国人介護人材育成支援協議会の 会議・イベントへの参加。 ・特定技能実習人材の受入れに関する 業務。(アイムジャパン、オノデラユー ザーラン)	実学生歓迎交流会 (東川)	実学生歓迎交流会 (東川)	技能実習生の賃 貸契約(確認)	卒業生実学生セミ ナー(旭福寿)											・外国人介護人材育成支援協議会主催の 会議・交流会等の参加と関係づくり。 ・特定技能実習生の受入に向けた情報収集 と準備。			
			実務								外国人技能実習 責任者講習、生活 指導員講習受講済											
3	(3)	・リクルート・広報活動の 充実・推進。	①SNS(LINE、ブログ、FB)の新規開設・運用・管理に関すること。 ②ホームページの運用・リニューアルに 関すること。	尾上	計画	HPのリニューアル 準備① マイナーチェンジ	求人リーフレット掲載 写真の撮影 HPのリニューアル 準備②	公式LINEの開設 HP応募専用 フォームの作成	HPのリニューアル 準備① マイナーチェンジ				HPのデザイン会社 調査	HPのデザイン設計	新しいHPの設計 ②見積もりと予算 化				・公式LINEを開設し、求職者との情報共有 をしやすくする。 ・ホームページに就職応募専用フォームを つくる。 ・R5年ホームページの全面リニューアルに 向けた準備。			
			実務																			
			計画	③多様な求人活動の展開・実施。 ・合同就職説明会 ・オンライン就職説明会 ・求人内就職相談窓口の設置 ・ハローワーク ・学校訪問 ・求人サイトの利活用 ・インターンシップの受入れ ・オリジナルグッズ製作	大学訪問(旭川大学、名寄市立大学ほか)	マイナビ中途採用 サイト広告準備	企業説明会(廣橋社協) ハローワーク訪問 オンライン就職説明会準備 リクルートリサーチ更新	ふくしのお仕事のつどい(旭川) 高校訪問(廣橋、旭福、明成、旭大、鶴岡)6月～ オリジナルグッズ制作 ハローワーク訪問 求人リーフレット制作	ふくしのお仕事のつどい(旭川) オンライン就職説明会① 就職相談窓口の設置 オリジナルグッズ制作 ハローワーク訪問	新卒者採用試験① 23福祉職場説明会(札幌) ふくしのお仕事のつどい(旭川) オンライン就職説明会② ハローワーク訪問	高卒者採用試験 ふくしのお仕事のつどい(旭川) オンライン就職説明会 ふくしのお仕事のつどい(旭川) ハローワーク訪問	新卒者採用試験 ふくしのお仕事のつどい(旭川) オンライン就職説明会 ふくしのお仕事のつどい(旭川) ハローワーク訪問	ふくしのお仕事のつどい(旭川) ハローワーク訪問	ふくしのお仕事のつどい(旭川) 福祉職場説明会(札幌) ハローワーク訪問	6福祉職場説明会(札幌) ハローワーク訪問	・求人情報の発信コンテンツの充実化 ・オンライン就職説明会の実施 ・気軽に就職相談ができる窓口の設置。 ・インターンシップ受入れ ・学校や関係機関と顔なじみになることで円滑にコミュニケーションを図ることができる関係をつくる。						
			計画																			
4	(3)	働きやすい職場づくりと法人のブランディング戦略推進。	①働きやすい職場づくりと法人のブランディング戦略の推進。 ②自法人の強みや特性を可視化し企業価値を高める。 ・R4年度ぐるみん認定やえるぼし認定の取得に向けた調査。 ・ソウエルクラブの活用による福利厚生 の充実	尾上	実務			面談制度(前期)	法人の強みについての情報収集・整理	法人の強みについての情報収集・整理	法人の強みについての情報収集・整理		ぐるみん・えるぼしについての情報収集 面談制度(後期)	ぐるみん・えるぼしについての情報収集 面談制度(後期)					・自法人の強みを集約しリクルート、職員へ積極的な発信を実施する。 ・優良企業認定資格取得に向けた情報収集と調査。 ソウエルクラブ活用実績年間20件			
			実務																			
			計画	はのぼの運用① (記録、請求、ケアプラン)	運用評価	運用評価	はのぼの運用② (看護サワラ、事故報告書など)	運用評価	運用評価		ICT先進施設見学 はのぼの運用① (モニタリング、事故分析など)	次年度ICT関連導入検討・予算化										
			実務																			
5	(4)	介護ロボット・ICTの推進により業務の効率化を図る	ICT推進チームの運営。 ・新介護情報システムの運用 ・最新のICT機器の情報収集と導入・活用促進 ・スタッフのデジタルリテラシーの向上 ・ペーパーレス化の取り組み	尾上	計画	はのぼの運用① (記録、請求、ケアプラン)	運用評価	運用評価	はのぼの運用② (看護サワラ、事故報告書など)	運用評価	運用評価		ICT先進施設見学 はのぼの運用① (モニタリング、事故分析など)	次年度ICT関連導入検討・予算化					・ICT推進プロジェクトチームの運営。 ・令和3年度導入の介護情報システム、介護ロボットの活用普及・評価と検証。 ・ICT取り組み先進施設の視察(または勉強会)の実施。 ・スタッフのデジタルリテラシーの向上とICT機器の活用による業務負担の軽減。 ・システム導入後の紙の使用量削減(前年			
			実務																			
			計画	・新介護情報システムの運用支援。 ・ヘルプデスク受付センターの使用検証 ・hugの活用促進 ・科学的介護推進システム(LIFE)運用の統括と支援。 ・LINEWORKSの運用・管理。	LINEWORKSでの入職・退職職員の登録と削除(随時) LIFE ADL維持加算初評価サポート システム操作サポート	LINEWORKS活用促進(継続)	ICT導入補助金申請事務(調査)			ICT導入補助金申請事務(本申請)									・新しい介護情報システムと関連機器を導入し職員が安心して運用できる。 ・導入した介護ロボットを効果的に活用できる。 ・全ての事業所においてLIFEを導入・運用できる。 ・LINEWORKSの活用により、情報共有が円滑に簡単にできるようになる。 ※職員アンケートにより、7割以上の職員の良い評価を得る。			
			実務																			
6	(5)	災害・感染症の業務継続計画(BCP)の策定。	災害・感染症の業務継続計画(BCP)の策定。 ※3年間の経過措置あり。(令和5年度運用を目指す)	尾上	計画				非常用発電機試験運転(なごみ、えん)	BCP案作成① 情報収集	BCP案作成②	BCP案作成③								・法人内全ての事業所のBCPを策定(R3～R4年度にかけて)し、R5年度、BCPに基づいた研修を実施を目指す。		
			実務																			
			計画	NASからクラウドストレージへの移行																		
			実務																			

令和4年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 法人本部

[評価基準]S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どりの結果 C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標 との連動	取組み事項	取組み内容	実施 担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間 評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール (達成目標)	最終 評価	評価内容
7		社会福祉士実習を積極的に受入れ、将来活躍する福祉人材を育成する。	社会福祉士の実習プログラムの見直しと受入。	尾上	計画			実習受入れ担当 者会議(相談援助 実習プログラムの 確認)	実習計画周知	旭川大学相談援助実習	旭川大学相談援助実習 上旬 相談援助実習(3日間)				社会福祉士実習指導者講習会(Web)申し込み 高橋菜		社会福祉士実習指導者講習会(Web)		・社会福祉士の相談援助実習の目的にそった実習プログラムの策定と実習受入れができる。 ・複数の事業所で社会福祉士の実習受入れができるよう実習指導担当者を養成する。		
					実務																

事業所名(部署)	総務課
----------	-----

1. 基本方針

『良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る』

2. 重点目標

- (1) 笑顔とやさしさ・思いやりのある心のこもった窓口対応に努めます。
- (2) チームワークとICT活用を通じて、総務サービスの質向上に努めます。
- (3) 利用者本位の生活空間の提供に努めます。
- (4) 働きやすい職場環境づくりに努めます。

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主 査	補 佐
1	(1)(3)(4)	施設環境の維持管理	①全事業所の建物・付属設備・車両等の定期点検及び必要な営繕を計画的に行うとともに、環境点検シートに基づく点検を実施する。 ②おもてなしの心を表すため、来客者への接遇対応、毎週実施している玄関及び大ホールの清掃並びに環境整備を継続して行う。さらに四季のしつらえ、新規入居者への受入時対応充実。 ③担当制による各施設・事業所の物品庫等の整理・整頓を推進する。(備品台帳に基づく現品確認を実施する)	継続	①井谷 ②高橋 ③舟根	全職員
2	(2)(3)	災害対策・感染症対策	①防災用品・備蓄品・災害機器の完備及び各種災害訓練(非常連絡網確認訓練含 各拠点年2回)の実施。 ②地域住民・行政等との連携による、実効性のある災害対策の組織構築を行う。 ③感染症対応事務の推進及び感染症対策物品の確保・整備実施。	継続	木 幡	物品:高橋 防災機器:井谷
3	(2)(4)	仕事の見える化の推進(業務推進体制の構築)	①朝会及び課内定例会議により、課員の業務スケジュールを確認し、効率的・安定的な業務の推進を図る。 ②各事務担当職員不在時においても、業務を推進できるように必要なマニュアル(ボランティア受け入れマニュアル、利用料金受領マニュアル、労務管理事務マニュアル等)を整備・活用し、事務処理方法の標準化と効率化を図る。 ③業務分担を変更し、課員全体で本部・総務課事務を推進できる体制を確立する。 ④事務機器・ICTを最大限活用し、業務の効率化・合理化を図る。	継続/新規	木 幡	全職員
4	(1)(4)	働きやすい職場づくり	①有給休暇の計画な取得を推進する。(リフレッシュ休暇の積極的取得(最低7日間)) ②衛生委員会の設置及び開催し、職場環境の向上を図る。 ③職場環境改善(施設・設備・車両・備品類の日常的な点検・整備等)を行う。	継続	①②佐藤 ③井谷	木 幡

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標 との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主 査	補 佐
5	(2)	会計事務の適正処理	①経理規程に基づき、適正な事務処理を行う。 ②各事業所の予算管理を適正に推進するため、担当課長との連携を強化する。 ③物品購入事務処理等会計処理の統一化を推進する。 ④前年度・前月との経費対比情報を提供し、各事業所の経費削減を支援する。	継続／新規	舟 根	木 幡
6	(4)	職員全体研修	①職員全体研修を体系化し、計画に基づき確実に実施する。(交通安全研修・メンタルヘルス研修・接遇研修・職員育成研修等) ②総務課職員が講師となって研修を実施する。(各事業所単位実施)	継続	①木幡 ②高橋	全職員
7	(1)(2)(4)	職員の資質向上のため研修受講・資格取得並びに課内会議・課内研修の定期開催	①総務課職員研修の実施(総務課の仕事の目的・目標の共有、PDCAと生産性向上、チームワーク向上、個とチームの課題明確化と改善) ②積極的に外部研修・他施設実地研修を受講し、受講職員による伝達研修を実施する。 ③積極的に業務に関連する資格取得する。(資格に関する情報を得る) ④定期的に課内会議開催し、課員内で積極的は情報交換を実施する。 ⑤定期的な課内職員研修開催(良質高度な総務サービス提供に向けて、法人・総務部門職員に求められる役割等)	継続	全職員	木幡

令和4年度 部門(事業所)別活動計画(実績)

部門(事業所)名 法人本部・総務課

〔評価基準〕S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どりの結果 C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標 との連動	取組み事項	取り組み内容	実施 担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間 評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール (達成目標)	最終 評価	評価内容
1	(1)(3)(4)	施設環境の維持管理	①全事業所の建物・付属設備・車両等の定期点検及び必要な営繕を行うとともに、環境点検シートに基づく点検を実施する。 ②おもてなしの心を表すために、来客者への対応、毎週実施している玄関及び大ホールの清掃並びに環境整備を継続して行う。さらに四季のしつらえ、新規入居者への受入時対応充実 ③担当制による各施設・事業所の物品庫の整理・整頓を推進する。(備品台帳に基づく現品確認を実施する。)	用務員 高橋 舟根 全職員	計画	①定期点検年間スケジュール作成 ②環境点検実施 ③環境整備継続 ④物品庫整理・整頓	①点検実施 ②環境点検実施 ③環境整備継続	①点検実施 ②環境点検実施 ③環境整備継続	①点検実施 ②環境点検実施 ③環境整備継続 ④物品庫整理・整頓	①点検実施 ②環境点検実施 ③環境整備継続	①点検実施 ②環境点検実施 ③環境整備継続		①点検実施 ②環境点検実施 ③環境整備継続 ④物品庫整理・整頓	①点検実施 ②環境点検実施 ③環境整備継続	①点検実施 ②環境点検実施 ③環境整備継続	①点検実施 ②環境点検実施 ③環境整備継続	①点検実施 ②環境点検実施 ③環境整備継続	①定期点検を実施し、事故等の未然防止、入居者・利用者様への影響軽減を図る。 ②おもてなしの心を徹底する。 ③物品庫整理で、無駄をなくし、保管物品の見える化を図る。			
					実施																
2	(2)(3)	災害対策・感染症対策	①防災用品・備蓄品の完備及び各種災害訓練(非常連絡網確認訓練含 各拠点年2回)の実施。 ②地域住民・行政等との連携による、実効性のある災害対策の組織構築を行う。 ③感染症対応事務の推進及び感染症物品の確保・整備実施。	木幡・ 高橋・ 用務員	計画	②行政への働きかけ	②組織構築に向けた検討	①避難訓練(各事業所)	①防災用品等確認	①避難訓練(非常連絡網確認含)	①自然災害避難訓練検討		①避難訓練	①各事業所へ灯油確保(災害時灯油ストープ用)	②組織構築に向けた打合せ			②組織構築	①災害に備え、防災用品等を整備する。 ②災害に備え、避難訓練(自然災害含)を実施する。 ③大規模災害に備え、地域住民・行政を巻き込んだ組織体制の構築		
					実施																
3	(2)(4)	仕事の見える化の推進 (業務推進体制の構築)	①朝会及び課内定例会議により、各職員の業務スケジュールを確認し、効率的・安定的な業務の推進を図る。 ②各事務担当職員不在時においても、業務を推進できるように必要なマニュアル(ボランティア受け入れマニュアル、利用料金受領マニュアル、労務管理事務マニュアル等)を整備して事務処理方法の標準化と効率化を図る。 ③業務分担を変更し、課員全体で本部・総務課事務を推進できる体制を確立する。 ④事務機器・ICTを最大限活用し、業務の効率化・合理化を図る。	木幡・ 全職員	計画	①朝会(毎日) ②課内定例会議(月1) ③各担当へマニュアル作成依頼 ④現在機器現状確認	①朝会(毎日) ②課内定例会議(月1) ③各担当へマニュアル確認	①朝会(毎日) ②課内定例会議(月1回) ③各担当へ実践施設見学	①朝会(毎日) ②課内定例会議(月1) ③各担当へマニュアル確認	①朝会(毎日) ②課内定例会議(月1) ③各担当へマニュアル確認	①朝会(毎日) ②課内定例会議(月1) ③各担当へマニュアル確認		①朝会(毎日) ②課内定例会議(月1回) ③各担当へマニュアル説明	①朝会(毎日) ②課内定例会議(月1回) ③機器類更新等検討	①朝会(毎日) ②課内定例会議(月1回) ③各担当へマニュアル実践	①朝会(毎日) ②課内定例会議(月1回) ③各担当へマニュアル実践	①朝会(毎日) ②課内定例会議(月1回) ③各担当へマニュアル実践	①朝会(毎日) ②課内定例会議(月1回) ③各担当へマニュアル実践	①朝会・課内定例会議の開催 ②各事務処理マニュアルの整備 ③業務分担変更 ④事務機器・ICTを活用し業務の効率化・合理化を図る。		
					実施																
4	(1)(4)	働きやすい職場づくり	①有給休暇の計画的な取得を推進する。(最低、各職員5日間の有給休暇取得) ②衛生委員会設置及び開催 ③職場環境改善(施設・設備・車両・備品類)を行う。	佐藤・ 用務員・ 全職員	計画	①計画的な有給取得 ②衛生委員会設置 ③職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②衛生委員会開催 ③職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討		①計画的な有給取得 ②衛生委員会開催 ③職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①課員全員が有給休暇を5日以上取得する。 ②衛生委員会設置及び定例開催される ③職場環境改善が適切に実施される。		
					実施																

令和4年度 部門(事業所)別活動計画(実績)

部門(事業所)名 法人本部・総務課				〔評価基準〕S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。																			
事業計画 No.	重点目標 との連動	取組み事項	取り組み内容	実施 担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間 評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール (達成目標)	最終 評価	評価内容		
5	(2)	会計事務の適切処理	①経理規程に基づき、適正な事務処理を行う。 ②各事業所の予算管理を適正に推進するため、担当課長との連携を強化する。 ③物品購入事務処理等会計処理の統一化を推進する。 ④前年度・全月との経費対比情報を提供し、各事業所の経費削減を支援する。	舟根・ 木幡	計画	①適正事務処理 ②予算管理システム検討(発注書に予算記載等) ④対比情報提供	①適正事務処理 ②予算管理システム実行 ④対比情報提供	①適正事務処理 ②予算未計上事案の取扱い検討 ④対比状況提供	①適正事務処理 ②予算管理強化 ③会計処理統一化検討 ④対比情報提供	①適正事務処理 ②予算管理強化(担当課長との打合せ) ④対比状況提供			①適正事務処理 ②予算管理強化 ③会計処理統一化提示 ④対比状況提供	①適正事務処理 ②予算管理強化 ③会計処理統一化実施 ④対比状況提供	①適正事務処理 ②予算管理強化(担当課長との打合せ) ④対比状況提供	①適正事務処理 ②予算管理強化 ③会計処理統一化実施 ④対比状況提供	①適正事務処理 ②予算管理強化(担当課長との打合せ) ④対比状況提供	①適正な経理事務を実施する。 ②予算管理が適正に執行される。 ③会計処理の統一化が図られる。 ④経費の対比状況等を提供することで、各事業所の経費削減が図られる。					
					実施																		
6	(2)(4)	職員全体研修会	①職員全体研修を体系化し、確実に実施する。(交通安全研修・メンタルヘルス研修・接遇研修・職員育成研修等)	木幡・ 高橋	計画	①研修計画作成検討	①職員全体会議開催(研修計画提示)	①研修計画作成	①各所属接遇研修開催	※人材育成(ネクストリーダー研修)	①交通安全研修開催		※人材育成(管理者研修)	①研修計画推進状況確認	①ストレスチェックに基づく研修実施	①研修計画実績確認	①次年度研修へのアンケート徴収	①研修計画策定	①職員に必要な研修が計画的に提供される。 ②職員の質が向上する。 ③職員が人財として育成させる。				
					実施																		
7	(1)(2)(4)	職員の資質向上のための研修受講・資格取得並びに課内会議・課内研修会の定期開催	①総務課職員研修の実施(総務課の仕事の目的・目標の共有、PDCAの生産性向上、チームワーク向上、個とチームの課題の明確化と改善) ②積極的に外部研修、他施設実地研修を受講し、受講職員による伝達研修を実施する。 ③積極的に業務に関する資格を取得する。(資格に関する情報を得る) ④定期的に課内会議を開催し、課員内で積極的に情報交換を実施する。	木幡・ 全職員	計画	①課内会議 ②課内研修(希望確認)	①課内会議	①課内会議 ②研修受講	①課内会議 ②課内研修	①課内会議	①課内会議		①課内会議 ②課内研修(希望確認)	①課内会議 ②研修受講	①課内会議 ②改善案発表(全職員)	①課内会議 ②課内研修 ③予算確保に向けた打合せ	①課内会議	①課内会議	①職員研修により個とチームの質が向上する。 ②研修を積極的に受講し、個とチーム及び業務改善が図られる。 ③職員全員が研修を受講し伝達研修を実施できる。 ④業務に必要な資格取得に関する情報を得ることができる。 ⑤定期的に課内会議を実施する。				
					実施																		

事業所名(部署)

法人本部(給食部門:なごみの家・ぬくもりの家えん・たかほ・あえーる 担当)

1. 基本方針

【良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る】

2. 重点目標

- (1) 身体の状態に合わせた栄養のある美味しい食事の提供
 (2) 衛生管理の徹底と災害対策
(3) 食を通じた住みよい町づくりへの貢献
 (4) 多職種との連携機能の強化
 (5) 予算に合わせた食事の提供

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規/継続	担当者	
					主査	補佐
1	(1) (4)	健康で穏やかな生活を支えられるよう、多職種が連携し、根拠に基づいたケアを提供することで豊かな暮らしをつくる。	①低栄養状態のリスクが高い入所者に対し、栄養ケア計画に従い食事の観察(ミールラウンド)を多職種連携で週3日以上行い、入所者ごとの栄養状態、嗜好などを踏まえた食事の調整等を実施し、栄養マネジメント強化加算を取得する。(特養えん) ②栄養ケアマネジメントを行い、年齢、病状、摂食状況、活動量を維持できる食事の提供を多職種連携で実施する。 ③入所者の栄養状態を把握し、日常的な栄養ケアに係わる介護職員への技術的助言や指導を実施し、栄養管理体制加算を取得する。(GHなごみの家) <u>④口腔・栄養スクリーニングを実施し、利用者の栄養状態についての確認と介護支援専門員への報告を実施し、口腔・栄養スクリーニング加算Ⅰを取得する。(なごみGH/SH)(えん小規模)</u>	<u>新規/継続</u>	課長	主任 リーダー 看護師 栄養士
2	(1) (4)	安全で美味しく、身体状態に合わせた食事の提供	①摂食障害者、ターミナル期の方への適切な食事形態や提示方法の提案、実践 ②見た目・味共に美味しいソフト食の提供。 ③献立の作り方マニュアル(レシピ表)の作成を継続し、統一感のある食事提供に努める。	継続	栄養士	課長 主任 看護師 リーダー
5	(1)	嗜好を取り入れ、楽しみのある食事の提供	①満足感とQOLの向上を図るため、季節感のある献立・食器への配慮をし、見た目に楽しく、おいしい食事の提供の実施。 ②年1回、栄養士による手作りおやつ提供のための計画と実施。 ③なごみの家・ぬくもりの家えん・たかほにて嗜好調査を実施する。	継続	栄養士	課長 主任

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標 との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
4	(2)	衛生管理の徹底と災害対策 給食設備の確認と徹底	①衛生管理および給食設備を定期的にチェックし、異物混入や食中毒防止に努める。 また、厨房器具等の見直し・必要備品の購入をする。 ②各現場で安全な食事が提供できるよう、年1回食中毒予防研修を実施し、安全な食事を提供する。 ③非常災害時の食材備蓄の管理と、災害時の食事提供時の対応方法の伝達の実施。	継続	栄養士	課長 主任 看護師
3	(3)	地域住民との関わりと介護予防の取組み	①子ども・高齢者に対する低栄養の改善のため、月に1回法人による地域食堂を実施する。 ②地域食堂を通して、地域住民との関わりを持ち、食事・栄養に対するニーズを把握する。 ③地域における介護予防の取組みを促進するために、月に1回栄養士による料理教室を実施する。 <u>④たかほ厨房より、昼食の提供を1日5食限定で地域住民に提供し、在宅高齢者の低栄養の予防・改善へのサポート体制をつくる。</u>	新規／継続	栄養士	たかほ 管理者
6	(4)	関係職種との連携機能の強化	①ご利用者により安全・安心・満足して頂ける食事提供のため、定期的な情報交換に努める。 ②各部署との入所者・給食に関する情報を日常的に共有し、各事業所の会議にて問題点の発見と改善に努める。	継続	栄養士	課長 主任
7	(5)	適正な予算管理	～なごみの家・ぬくもりの家えん・ぬくもりの家たかほ～ ①給食費の予算に合わせた献立の作成 ②無駄のない食材の仕入れの実施 ③食材の在庫管理の実施 ④食材収支表の作成・原価表の作成の実施	継続	栄養士	

令和4年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名:法人本部・給食部門

[評価基準] S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待通りの結果 C:アクションしたが結果不十分 D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標 との連動	取組み事項	取組み内容	実施 担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間 評価	評価内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール (達成目標)	最終 評価	コメント	
1	(1)(4)	健康で穏やかな生活を支えられるよう、多職種が連携し、根拠に基づいたケアを提供することで豊かな暮らしをつくる	①低栄養状態のリスクが高い入所者に対し、栄養ケア計画に従い食事の観察(ミールラウンド)を多職種連携で週3日以上行い、入所者ごとの栄養状態、嗜好などを踏まえた食事の調整等を実施し、栄養マネジメント強化加算を取得する。(特養えん)	看護師 栄養士 リーダー	計画	ミールラウンドの準備	ミールラウンドの実施	→	→	→	→			ミールラウンドの実施	→	→	→	→	→	・多職種でミールラウンドの実施ができたか。			
			②栄養ケアマネジメントを行い、年齢、病状、摂食状況、活動量を維持できる食事の提供を多職種連携で実施する。		実施																		
			③入所者の栄養状態を把握し、日常的な栄養ケアに係わる介護職員への技術的助言や指導を実施し、栄養管理体制加算を取得する。(GHなごみの家) <u>④6ヶ月毎に口腔・栄養スクリーニングを実施し、利用者の栄養状態についての確認と介護支援専門員への報告を実施し、口腔・栄養スクリーニング加算Iを取得する。(なごみGH/SH)(えん小規模)</u>	己上	計画	各事業所の利用者のデータの収集と必要栄養量の算出	栄養ケアマネジメント 口腔栄養スクリーニングの実施	→	→	→	→	→			栄養ケアマネジメント 口腔栄養スクリーニングの実施	→	→	→	→	栄養状態の評価	・ぬくもりの家えんでの栄養ケアマネジメントの実施。 ・年1回、利用者全員のBMIを確認し、低栄養の方の食事改善を実施できたか。 ・GHなごみの家での食事や栄養に関する助言や指導の実施 <u>・なごみの家GH/SH、えん小規模での口腔・栄養スクリーニングの実施ができたか。</u>		
2	(1)(4)	安全で美味しく、身体状況に合わせた食事の提供	①摂食障害者、ターミナル期の方への適切な食事形態や提示方法の提案、実践。 ②見た目・味共に美味しいソフト食の提供。 ③献立の作り方マニュアル(レシピ表)の作成を継続し、統一感のある食事提供に努める。	己上	計画	新規メニューのレシピ作成	ソフト食のかしわ餅提供		新規メニューのレシピ作成	→	ソフト食のおはぎ提供					→	嗜好調査の実施	ソフト食の板餅提供	・多職種連携で個人にあった食事提供ができたか。 ・見た目も美味しいソフト食が提示できていたか。 ・レシピ表を活用し、統一感のある食事提供ができたか。				
			実施																				
3	(3)	地域住民との関わりと介護予防の取り組み	①子ども・高齢者に対する低栄養の改善のため、月に1回法人による地域食堂を実施する。 ②地域食堂を通して、地域住民との関わりを持ち、食事・栄養に対するニーズを把握する。 ③地域における介護予防の取り組みを促進するために、月に1回栄養士による料理教室を実施する。	己上 鈴木	計画	地域食堂料理教室計画実施	→	→	→	→	→			地域食堂料理教室計画実施	→	→	→	→	→	・月1回地域食堂を実施できた。 ・月1回料理教室を実施できた。			
			④たかほ厨房より、昼食の提供を1日5食限定で地域住民に提供し在宅高齢者の低栄養の予防・改善へのサポートの体制をつくる。	能登 己上	計画		弁当計画作成	給食会議にて調理員へ説明			対象者の把握 予約開始 備品準備	たかほ弁当実施開始			たかほ弁当実施と改善	→	→	→	→	→	・地域住民に昼食を提供することで低栄養の予防に役立っことができたか。		
			実施																				
4	(2)	衛生管理の徹底と災害対策 給食設備の確認と徹底	①衛生管理および給食設備を定期的にチェックし、異物混入や食中毒防止に努める。また、厨房機器等の見直し・必要備品の購入をする。 ②各現場で安全な食事が提供できるよう、年1回食中毒予防研修を実施し、安全な食事を提供する。 ③非常災害時の食料備蓄の管理と、災害時の食事提供時の対応方法の伝達の実施。	己上	計画	給食設備のチェック・厨房器具の見直し	→	→	食中毒予防研修の実施	給食設備のチェック・厨房器具の見直し	防災の日備蓄確認 提示方法の伝達		給食設備のチェック・厨房器具の見直し	→	→	→	→	→	→	・給食設備の定期的チェックと厨房器具の見直し。 ・なごみの家・ぬくもりの家えん・たかほ・ヘルパーを対象とした食中毒予防研修の実施。 ・災害時の食料備蓄の確認と伝達ができたか。			
5	(1)	嗜好を取り入れ、楽しみのある食事の提供	①満足感とQOLの向上を図るため、季節感のある献立・食器への配慮をし、見た目に楽しく、おいしい食事の提供の実施。 ②年1回、栄養士による手作りおやつ提供のための計画と実施。 ③なごみの家・ぬくもりの家えん・たかほにて嗜好調査を実施する。	己上	計画	祝日祝い膳の実施 不足食器購入	→	ジンギスカン実施	祝日祝い膳の実施 流しそうめん実施	→	手作りおやつ計画と実施(お月見)		祝日祝い膳の実施	→	不足食器の選定・確認 予算見積 行事食の実施	行事食の実施	嗜好調査の実施	嗜好調査集計 評価	・不足している食器がない確認し、数が不足しているものの購入。または新規食器の購入。 ・季節の食材を献立に反映し季節感を出せたか。 ・栄養士による手作りおやつの実施 ・なごみの家・ぬくもりの家えん・ぬくもりの家たかほにおいて、嗜好による調査を実施し問題点と改善に努めたか。				
			実施																				
6	(4)	関係職種との連携機能の強化	①ご利用者により安全・安心・満足して頂ける食事提供のため、定期的な情報交換に努める。 ②各部署との入所者・給食に関する情報を日常的に共有し、各事業所の会議にて問題点の発見と改善に努める。 <u>③たかほ調理員対象の給食会議を実施し、定期的に問題点やオペレーションの見直しの検討を実施する。</u>	己上	計画	各会議への参加と問題点の改善	→	たかほ給食会議①	→	→	たかほ給食会議②		各会議への参加と問題点の改善	→	→	たかほ給食会議②	→	→	→	・定期的に情報を共有できたか。 ・なごみ会議・えん時業会議・えん給食会議の毎月の参加により問題点を確認し改善へ向けてのアプローチができたか。 <u>・たかほの給食会議を実施し、問題点の改善や見直しを実施できたか。</u>			
					実施																		

令和4年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名:法人本部・給食部門

〔評価基準〕S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分 D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標 との連動	取り組み事項	取り組み内容	実施 担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間 評価	評価内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール (達成目標)	最終 評価	コメント
7	(5)	適正な予算管理	～なごみの家・ぬくもりの家えん～ ①給食費の予算に合わせた献立の作成 ②無駄のない食材の仕入れの実施 ③食材の在庫管理の実施 ④食材収支表の作成・原価表の作成の実施	己上	計画	食材収支 表の作成 原価表の 作成	→	→	→	→	→			食材収支 表の作成 原価表の 作成	→	→	→	→	→	・献立原価が予算内であったか ・食材収支額が年間で予算内であつ たか		
					実施																	

事業所名(部署)	特別養護老人ホーム 鷹栖さつき苑
----------	------------------

1. 基本方針

『よいケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る』

2. 重点目標

- (1) 根拠に基づいたケアサービスの提供と、多職種協働でトータルケア(総合的視点による予防的ケア)を実践。
- (2) スタッフの専門性の向上を図るため、その方にかかわる情報を集め、求められるニーズからケア目標を立案し、根拠に基づいたケアサービスを展開できるよう育成する。
- (3) 口から食べ続けられることにこだわり、安全に、美味しく、楽しめる食事を提供する。
- (4) ご入居者の活き活きたくらしづくりと、ご家族や地域とのつながりを大切にし、積極的に交流の機会をもつ。
- (5) 新規採用職員(特に外国人)が定着し、地域とともに働きがいと魅力ある職場環境をつくる。
- (6) 業務の効率化と業務マニュアルの整備。
- (7) 適正利益の確保と安定した運営。

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
1	(1)	根拠に基づいたケアサービスの提供と、多職種協働でトータルケア(総合的視点による予防的ケア)を実践。	①新規システムを運用しながら、ケアチェックと多職種協働によるトータルケアを実践し病気の重症化や再発を予防と業務の効率化を図る。 ②多職種で排せつ、食事の関係をしっかりと把握し、褥瘡や体調不良を要因分析と対応を強化し、症状の重症化を予防に努める。(目標:自立支援促進、排せつ加算、褥瘡マネジメント加算を積算する) ③多職種によるカンファレンスを速やかに開催し根拠に基づいた要因分析と対応策をたてケアを実践。(目標:年間入院日数320日以内)	継続	課長	主任
2	(1)	尊厳を守り、痛みや苦しみを緩和し、個々にあわせた、より良質なケアサービスを提供。	①下剤服用による苦痛、認知症の周辺症状の悪化を予防するため下剤使用の見直しを継続し、自然排泄のための補助療法等を多職種で実施し、画一的な下剤の使用をできるだけ減らし、刺激性下剤常用者全入居者の6%以内(3人)をめざす。 ②向精神薬、眠剤、その他の薬剤について、薬剤の特性を理解し、通常期待される効果が認められていない、または、副作用が強く出ている場合など、本人の状態を踏まえたうえで医師と相談、見直しを図る。 ③誤嚥性肺炎を起こさないよう食事方法の見直しと口腔ケアの研修や <u>歯科衛生士の助言を受けられる体制を構築しケアの向上を図る</u> 。また、本人の痛みや苦しみを緩和するために、喀痰吸引が少なくなるようなケア方法を実施する。 ④尊厳ある排泄をめざしその方に合わせた排泄方法、オムツ形態を見直します。尿失禁のある方に対し、排せつのタイミングを把握し、できる限りトイレでの排泄をしていただくことで清潔な状態を保つ。 ⑤ポジショニング用品の見直しと <u>研修を実施し</u> 、拘縮と褥瘡を防ぐ。 ⑥ <u>認知症ケアの向上を図るため、実務者研修の参加と認知症のカンファレンスシートを使用しタイプに適したケアの実践を行う。</u>	継続 新規	看護師	主任 各リーダー

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
3	(2)	自立支援を視点におき、活き活きと暮らせる生活と環境を創る。	①担当スタッフが入居者個別に課題分析、計画の立案、目標に向けたケア(介護過程)を展開しQOL及びADLの向上を目指す。 ②残存機能を活かし役割を持っていただくことで活き活きとした暮らしを提供します。 ③アクティビティ(個別での外出、季節行事、レクリエーション活動、散歩など)を行い、スタッフも一緒に楽しめるイベントを計画的に実施する。 ④施設内環境の <u>整理・整頓・清潔</u> を徹底し、また季節感を感じられる潤いある環境をつくることで、ご利用者が安心して落ち着いて暮らせる環境をつくる。	継続	リーダー	主任
4	(3)	口から食べ続けられることにこだわり、安全に、美味しく、楽しめる食事を提供する。	①日々の生活の中で、食を通した生活の質の向上として、季節感のあるものを食べることにより、四季の移り変わりを感じて頂けるよう、行事・祝膳の提示の提案・実施。 ②献立のみではなく、食器へ配慮し、見た目にも楽しく食べやすい食事の提供。 ③味も見た目にもおいしいソフト食の提供。 ④健康を維持できる食事の提供を強化する。 <u>(便秘解消、免疫力強化、各既往症に適した食事)</u>	継続	栄養士	主任
5	(3)	入居者の健康の維持・向上のための栄養ケアを実践する。	①毎月の体重の増減を確認し、改善策を都度リーダーに提案・実施。 ②食事量、水分量、排泄状況のケアを毎週行い、食を通したアプローチを提案・実施。 ③排泄困難者に対して、食を通して個々に合わせたアプローチする。 ④食事量低下時における対応を柔軟に行い、食事量を戻す取り組みを行う <u>(補助食品の見直し、食形態の見直し、嗜好品の取り入れ)</u>	継続 新規	栄養士	主任
6	(3)	給食委託業者との連携強化。	①衛生管理及び給食設備を定期的に確認し、食中毒の予防。 ②委託業者との情報交換、協力体制を密にするため、毎日のミーティングと月1回の給食運営会議を実施。 ③よりおいしい食事の提供をめざし、新たな食材の導入の検討と厨房の業務(調理行程など)の効率化。 ④委託契約額の適正化。	継続	栄養士	主任 課長
7	(4)	安心して生活できる施設づくり	①事故に対する危険予測の意識を高めるための研修会を開催するほか、ヒヤリハットと過去の事故事例をユニット会議内において継続的に周知し予防意識を啓発します。(目標:事故件数、前年度より、 <u>10%減少</u> 、骨折事故ゼロ、服薬に関する事故を可能な限り無くしていく) ②高齢者虐待や身体拘束予防の研修会の実施のほか、毎月のユニット会議において身体拘束(及び不適切なケア)を議題にあげ対応について全員で検討、共有する。(目標:身体拘束と虐待及び不適切なケア <u>0件</u>) ③医師及び感染症対策委員会と連携しながら、食中毒、ノロウィルス、インフルエンザ、コロナウィルス等を予防する。(目標:インフルエンザ・ノロウィルス、コロナウィルス集団感染(5名以上)発症0件) ④認知症への理解と周辺症状対応力を向上する <u>(認知症実践者研修受講1名)</u>	継続	看護師 主任	各リーダー
8	(5)	スタッフ個々の基礎介護力と実践力の向上。	①全職種、全職員を対象とした研修を継続実施し、より実践的な知識、技術を身につけ専門性と実践力の向上を図る。 ②学んだ知識を日常のケアで実践していくことで身につけていく。	継続	課長	主任

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標 との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
9	(5)	ご家族や地域とのつながりを大切に し、積極的に交流の機会をもつ。	①四半期に一回の写真付きお手紙の継続。 ② <u>コロナ禍でも面会ができる環境の整備。</u> ③入居者と家族が交流できる行事方法の検討実施。	継続	各担当	リーダー
10	(5)	チームワークの向上と働きがいと魅 力ある職場環境をつくり、退職者ゼロ と <u>適切な人材の確保を目指す。</u>	①有給休暇の確保または2回に分けて有給計画の付与を継続。 ② <u>自ら考え、責任を持って行動する。互いのことを思いやり協力する職員集団となる。</u> ③実習生の積極的受入を図り、介護の魅力を伝えて行く。実習指導者研修の受講(1名) ④外国人採用職員が職場に慣れ、職場や地域で楽しく生活できるように支援する(法人企画B-proの参 画2名) ⑤ <u>技能実習生の受入を積極的に行う</u>	継続 新規	課長	主任
11	(6)	業務の効率化とマニュアルの整備。	①会議、研修の内容を見直し、効率的かつ効果な実施をすることで、開催時間・回数を見直す。 ②毎月の会議により、業務改善について確認・検討し、業務の改善と効率化をはかる。 ③ <u>現在担当となっている業務をマニュアル化し整理する。</u> ④ <u>記録のIT化によって生じた時間を有効に活用していく。</u>	継続 新規	課長	主任
12	(7)	適正利益の確保と安定した運営。	①入院者数の減少、入退居の迅速な手続きにより空床を減らし稼働率の維持、向上を目指す。(目標年 間稼働率98%以上、入退居時の空床日数平均7日間以内) ②排泄ケア加算、褥瘡ケア加算等、ターミナルケア加算を評価、実践し取得する。 ③目標事業活動収入:円	継続	課長	主任

事業所名(部署)	鷹栖町ショートステイ さつき苑
----------	-----------------

1. 基本方針

『よいケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る』

2. 重点目標

- (1) 根拠に基づいたケアサービスの提供と、多職種協働でトータルケア(総合的視点による予防的ケア)を実践。
- (2) スタッフの専門性の向上を図るため、その方にかかわる情報を集め、求められるニーズからケア目標を立案し、根拠に基づいたケアサービスを展開できるよう育成する。
- (3) 口から食べ続けられることにこだわり、安全に、美味しく、楽しめる食事を提供する。
- (4) ご入居者の生き生きしたくらしづくりと、ご家族や地域とのつながりを大切にし、積極的に交流の機会をもつ。
- (5) 新規採用職員(特に外国人)が定着し、地域とともに働きがいと魅力ある職場環境をつくる。
- (6) 業務の効率化と業務マニュアルの整備。
- (7) 適正利益の確保と安定した運営。

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
1	(1)	根拠に基づいたケアサービスの提供と、多職種協働でトータルケア(総合的視点による予防的ケア)を実践。	①新規システムを運用しながら、ケアチェックと多職種協働によるトータルケアを実践し病気の重症化や再発を予防と業務の効率化を図る。 ②居宅介護支援事業所や関わっている他事業所や職種によるカンファレンスを速やかに開催し根拠に基づいた要因分析と対応策をたてケアを実践。(目標:入院による停止を10件以内)	継続	課長	主任
2	(1)	尊厳を守り、痛みや苦しみを緩和し、個々にあわせた、より良質なケアサービスを提供。	①病状やADL状況をしっかりと把握し、本人、家族、ケアマネージャー等多職種連携を図り健康管理を実践。 ②尊厳ある排泄をめざしその方に合わせた排泄方法、オムツ形態を見直しします。また、尿失禁のある方に対し、排せつのタイミングを把握し、できる限り在宅で生活できるように支援する。	新規・継続	看護師	主任
3	(2)	自立支援を視点におき、生き生きと暮らせる生活と環境を創る。	①残存機能を活かし在宅生活の維持と生き生きとした暮らしができるようにケアを提供します。 ②アクティビティ(季節行事、レクリエーション活動など)を充実させ、スタッフも一緒に楽しめるイベントを計画的に実施する。 ③施設内環境の整理・整頓・清潔を徹底し、また季節感を感じられる潤いある環境をつくることで、ご利用者が安心して落ち着いて暮らせる環境をつくる。	継続	リーダー	主任
4	(3)	口から食べ続けられることにこだわり、安全に、美味しく、楽しめる食事を提供。	①日々の生活の中で、食を通した生活の質の向上として、季節感のあるものを食べることで、四季の移り変わりを感じて頂けるよう、行事・祝膳の提示の提案・実施。 ②献立のみではなく、食器へ配慮し、見た目にも楽しく食べやすい食事の提供。 ③味も見た目にもおいしいソフト食の提供。 ④ <u>健康を維持できる食事の提供を強化する。(便秘解消、免疫力強化、各既往症に適した食事)</u>	継続	栄養士	主任

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標 との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
5	(3)	入居者の健康の維持・向上のための栄養ケアを実践。	①毎月の体重の増減を確認し、栄養改善策を本人、ご家族に提案・実施。 ②食事量、水分量、排泄状況の確認をし、食を通してアプローチを提案・実施。 ③排泄困難者に対して、食を通して個々に合わせたアプローチする。	継続	栄養士	主任
6	(3)	外部委託業者との連携強化。	①衛生管理及び給食設備を定期的に確認し、食中毒の予防。 ②委託業者との情報交換、協力体制を密にするため、毎日のミーティングと月1回の給食運営会議を実施。 ③よりおいしい食事の提供をめざし、新たな食材の導入の検討と厨房の業務(調理行程など)の効率化。 ④委託契約額の適正化。	継続	栄養士	主任
7	(4)	安心して生活できる施設づくり。	①事故に対する危険予測の意識を高めるための研修会を開催するほか、ヒヤリハットと過去の事故事例をユニット会議内において継続的に周知し予防意識を啓発します。(目標:事故件数、前年度より、10%減少、骨折事故ゼロ、) ②高齢者虐待や身体拘束予防の研修会の実施し、毎月のユニット会議において身体拘束(及び不適切なケア)を議題にあげ、対応について全員で検討、共有する。(目標:身体拘束と虐待及び不適切なケア0件) ③医師及び感染症対策委員会と連携しながら、ノロウィルス、インフルエンザ、コロナウィルスを予防する。(目標:インフルエンザ・ノロウィルス、コロナウィルス集団(5名以上)発症0件)	継続	主任	各スタッフ
8	(5)	スタッフ個々の基礎介護力と実践力の向上。	①全職種、全職員を対象とした研修を継続実施し、より実践的な知識、技術を身につけ専門性と実践力の向上を図る。 ②根拠に基づき各研修に連動した具体的なOJTを取り入れた新任教育を継続実施する。またエルダー面談や定期面談を計画的に実施する。	継続	課長	主任
9	(5)	チームワークの向上と働きがいと魅力ある職場環境をつくり、退職者ゼロを目指す。	①有給休暇(8連休または2回に分けて)の計画的付与を継続。 ②自ら考え、責任を持って行動する。互いのことを思いやり協力する職員集団となる。 ③実習生の積極的受入を図り、介護の魅力を伝えて行く。実習指導者研修の受講(1名) ④外国人採用職員が職場に慣れ、職場や地域で楽しく生活できるように支援する(法人企画B-proの参画2名) ⑤技能実習生の受入を積極的に行う	継続	課長	主任
10	(6)	業務の効率化とマニュアルの整備。	①会議、研修の内容を見直し、効率的かつ効果な実施をすることで、開催時間・回数を見直す。 ②毎月の会議により、業務改善について確認・検討し、業務の改善と効率化をはかる。 ③現在担当となっている業務をマニュアル化し整理する。 ④記録のIT化によって生じた時間を有効に活用していく。	継続	課長	主任
11	(6)	適正収益を確保し安定運営する。	①新規利用者、ショートステイ利用の満足度を向上させ稼働率を向上させます。また、安心してご利用いただくため、感染症予防対策を徹底します。 <u>(目標年間稼働率:93%)</u> <u>②目標事業活動収入:32,784,000円</u>	継続	課長	主任

令和4度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 生活福祉課

〔評価基準〕S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どりの結果 C:取り組んだ D:全くアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との運動	取組み事項	取組み内容	実施担当者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容
1	(1)	根拠に基づいたケアサービスの提供と、多職種協働でトータルケア(総合的視点による予防的ケア)を実践。	①新規システムを運用しながら、ケアチェックと多職種協働によるトータルケアを実践し病気の重症化や再発を予防と業務の効率化を図る。 ②多職種で排せつ、食事の関係をしっかりと把握し、褥瘡や体調不良を要因分析と対応を強化し、症状の重症化を予防に努める ③多職種によるカンファレンスで要因分析と対応策をたてケアを実践。	相談員 ケー ネー ジャー	計画 ケアチェック、褥瘡予防カンファレンス実施(継続) ①定期的カンファレンス(1回) ②新システムの活用 ③特養勉強会							ケアチェック、特養勉強会①				リーダー勉強会		・尿路感染症ゼロ、褥瘡ゼロを目指す。 ・年間入院日数320日以内。		
2	(1)	尊厳を守り、痛みや苦しみを緩和し、個々にあわせた、より良質なケアサービスを提供。	①下剤服用による苦痛、認知症の周辺症状の悪化を予防する。 ②向精神薬、眠剤、その他の薬剤について、医師と相談、見直しを図る。 ③誤嚥性肺炎を起こさな。また、本人の痛みや痛みを緩和するために、喀痰吸引が少なくなるようなケア方法を実施する。 ④尊厳ある排泄をめざしその方に合わせた排泄方法、オムツ形態を見直す。 ⑤ボジョニング用品の見直しと研修を実施し、拘縮と褥瘡を防ぐ。	看護師 主任	計画 ナース会議、ユニット会議内にて検討(継続) ・各ユニット会議で口腔ケアの状況確認 ・オムツ形態見直し							ナース会議、ユニット会議内にて検討(継続) 「口腔ケア研修」					・下半期下剤服用排泄状況評価 ・下半期誤嚥性肺炎の状況確認	・刺激性下剤常服用者 全入居者の6%以内(3人) ・向精神薬、眠剤等の服用者 全入居者の12%以内を目指す。 ・ご入居者の状況に合わせ、随時排泄ケア(トイレの使用、おむつの使用)について検討し、排泄に関する改善を図る。 ・口腔ケアの見直しと徹底を図り、誤嚥性肺炎を5件以内とする。 ・トイレでの排せつと適正なオムツ利用によりオムツコストを全高平均にする。		
3	(2) (4)	自立支援を視点におき、活き活きと暮らせる生活と環境を創る。	①入居者個別に課題分析、計画の立案、目標に活き活きと暮らせる生活と環境の向上を目指す。 ②残存機能を活かし役割を持ていただく。 ③アクティビティ(個別での外出、季節行事、レクリエーション活動、散歩など)を行い、スタッフも一緒に楽しめるイベントを計画的に実施する。 ④施設内環境の整理・整頓・清潔を徹底し、また季節感を感じられる潤いある環境をつくる。	リーダー	計画 ・担当による介護過程の展開(継続) ・春の一斉清掃 ・夏祭典 ・グリーン計画 ・外出行事の実施(数回・買物・外食など) ・花壇づくり ・さつき祭 ・焼き肉会 ・熱夏花火鑑賞 ・シニア湯 ・七夕祭り ・新秋祭 ・環境点検							・担当による介護過程の展開(継続) ・秋の一斉清掃 ・新秋祭 ・出前の日						・各担当が介護過程を展開できる ・計画通りに行事が実施できる		
4	(5)	安心して生活できる施設づくり。	①事故に対する危険予測の意識を高めるための研修会を開催。ヒヤリハットと過去の事故事例を継続的に周知し予防意識を啓発します。 ②高齢者虐待や身体拘束予防の研修会の実施のほか、毎月のユニット会議において身体拘束検討する。 ③医師及び感染症対策委員会と連携しながら、食中毒、ノロウイルス、インフルエンザ、コロナウイルス等を予防する。 ④認知症への理解と周辺症状対応力を向上する	主任	計画 ・事故発生時の対応について研修 ・ヒヤリハットの導入 ・感染症予防研修 ・加温器撤去 ・食中毒予防研修 ・避難訓練 ・虐待、身体拘束予防研修 ・事故の傾向調査・分析・報告 ・救急救命研修 ・インヤンハット ・インフルエンザワクチン予防接種案内 ・インフルエンザ研修 ・口腔ケア研修 ・基礎介護研修							・インフルエンザ・ノロウイルス感染予防研修 ・事故の傾向調査・分析・報告 ・感染症予防研修 ・口腔ケア研修 ・基礎介護研修						・インフルエンザ・ノロウイルス・コロナウイルス集団発症0件。 ・事故件数、前年度より、減少。 ・骨折事故ゼロ。 ・身体拘束と虐待及び不適切なケア0件。		
5	(3)	口から食べ続けられることを大切に考え、個々の体調に合った美味しく、楽しめる食事を提供する。	①日々の生活の中で、食を通した生活の質の向上として、季節感のあるもの食べることにより、四季の移り変わりを感じて頂けるよう、行事・祝慶の提示の提案・実施をする。 ②嚥下機能の低下により食事形態の調整が必要な方も、常食の方と同じような目で四季を感じられるおやつを食べいただける機会を作るために、ソフト食の手作りおやつを提供する。 ③献立のみではなく、食器へ配慮し、見た目にも楽しく食べやすい食事を提供する。	栄養士	計画 ・新和の目祝膳 ・憲法の日祝膳、みどりの日祝膳、こどもの日祝膳、母の日祝膳、さつき祭メニュー検討・試食会 ・父の日祝膳 ・海の日祝膳、土用の日の日祝膳、山の日祝膳、新秋祭メニュー検討・試食会 ・さつき祭								・スボツの日・ハロウィン祝膳、新年メニュー検討・試食会 ・文化の日祝膳、勤労感謝の日祝膳 ・冬至メニュー・クリスマスメニュー・クワイオンズクリスマス委員会・もちつき・大晦日 ・三が日・成人の日祝膳 ・部分の日祝膳、建国記念日祝膳、天皇誕生日祝膳、ハロウィン・タイガー祝膳 ・ひな祭りの祝膳、春分の祝膳、ボワイトデー祝膳					・季節感を感じて頂くための年間食事計画を予定通り実施出来る。 ・必要に応じて行事食の試食会を実施し、参加者に喜んで頂ける献立を作ることが出来る。 ・ターミナルケアの時期でもできるだけ口から摂取できる		
			②嚥下機能の低下により食事形態の調整が必要な方も、常食の方と同じような目で四季を感じられるおやつを食べいただける機会を作るために、ソフト食の手作りおやつを提供する。	栄養士	計画 手作りおやつ:かしわ餅													・季節感を感じていただくため、安全かつ見た目の良い手作りおやつ提供を予定通り実施出来る。		
			③献立のみではなく、食器へ配慮し、見た目にも楽しく食べやすい食事を提供する。	栄養士	計画 新規食器購入の検討													・計画的に食器の購入を行い、見た目にも良い食事提供を実施することが出来る。		
6	(3)	特養における管理栄養士の役割を学び、入居者の健康の維持・向上のための栄養ケアを実践します。	①毎月の体重の増減を確認し、改善策を都度リーダーと連携して立案し、実施する。 ②食事量、水分量、排泄状況のダブルチェックを毎週行い、食を通したアプローチを提案し実施する。 ③排泄困難者に対して、食を通して個々に合わせたアプローチする。	栄養士	計画 体重増減の確認と対応、報告 ・ダブルチェック													・体重の増減を把握し、個々の体に合わせた体重管理と要因分析・改善に向けて提案と実践が出来る。 ・体重減少者に適切な対応をすることが出来る。 ・毎週のダブルチェックを習慣化し継続することが出来る。 ・個々に合った排便のアプローチを行い、排便困難者の減少を図ることが出来る。		

令和4度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名		生活福祉課		〔評価基準〕S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:取り組んだ D:全くアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。																			
事業計画 No.	重点目標との運動	取組み事項	取組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール (達成目標)	最終評価	評価内容		
7	(3)	外部委託業者との連携強化。	①衛生管理及び給食設備を定期的に確認し、食中毒を予防する。	栄養士	計画				①給食設備の確認 ②衛生管理方法についての確認・見直し		食中毒予防研修(ユニット会議等)									事故や食中毒なく食事提供を行うことができる。			
			実施																				
		委託業者との情報交換、協力体制を密にするため、毎朝のミーティングと月1回の給食運営会議を実施。		栄養士	計画					①ミーティング内容検討・業務内容調整											・毎朝のミーティングを継続して行うことができ、食事内容や業務内容についての情報を共有できる。 ・計画的にミーティング・会議を行い、課題を迅速に解決していくことができる。		
			実施																				
		③より美味しい食事の提供をめざし、新たな食材の導入の検討と厨房の業務(調理行程など)の効率化。		栄養士	計画					厨房業務・オペレーションの確認と効率化の検討											・使用する食材や調理方法を検討し、より美味しく満足度の高い食事を提供できる。 ・業務内容を見直し、効率のよい業務を行うことにより、食事の質を上げることができる。		
			実施																				
8	(2)	スタッフ個々の基礎介護力と実践力の向上	①全職種、全職員を対象とした基礎介護研修を継続実施し、より実践的な知識、技術を身につけ専門性と実践力の向上を図る。 ②学んだ知識を日常のケアで実践し介護力を高める	全職員	計画				・目標を掲げ年2回はその達成に取り組む ・介護過程の展開				基礎介護研修							各自があげた目標(一人2つ)が実践される			
			実施																				
9	(4)	ご家族や地域とのつながりを大切にし、積極的に交流の機会をもつ。	①ご入居者とご家族と一緒に楽しめる行事を企画・実施。 ②コロナウイルス感染を予防しながら家族との関わりができる取り組みの企画と実施 ③四半期に1回、各担当からの手紙発送。	各担当	計画				・四半期毎の手紙の送付 ・工夫した面会の実施								・新年会			入居者と家族のつながりを絶たないようにする。			
			実施																				
10	(5)	チームワークの向上と働きがいと魅力ある職場環境をつくり、退職者ゼロと適切な人材の確保を目指す。	①有給休暇の計画的付与を継続。 ②自ら考え、責任を持って行動する。互いのことを思いやり協力する職員集団になる。 ③実習生の積極的受入を図り、介護の魅力を伝えて行く。 ④外国人採用職員が職場に慣れ、職場や地域で楽しく生活できるように支援する。 ⑤技能実習生を積極的に受け入れる。	課長主任	計画				・各会議内で業務改善について検討(継続) ・歓迎会	・リフレッシュ休暇取得開始 ・技能実習生受け入れ								・職員忘年会			・希望者全員が長期休暇(8連休または分割した連休)を取得できる。 ・30分以上のサービス残業ゼロ。 ・新任職員(1年未満)の職員の退職ゼロ。 ・外国人が介護福祉士の試験に受かる。 ・技能実習生を受け入れ定着させる		
			実施																				
11	(6)	業務の効率化とマニュアルの整備。	①会議、研修の内容を見直し、効率的かつ効果な実施をすることで、開催時間・回数の見直し。 ②毎月の会議により、業務改善について確認・検討し、業務の改善と効率化をはかる。 ③現在行っている業務をマニュアル化し整理。 ④ノリフトケアを勧めると共に記録のICT化により職員の負担軽減と時間の有効活用をしていく。	課長主任	計画				会議で入院者・退居者のカンファレンスの実施。	・オペレーション見直し ・新しいすのこ見直し。購入	スライディングボードの活用							会議で入院者・退居者の要因分析を実施。	・オペレーション見直し		・職員の腰痛者がいなくなる。 スライディングボード、hug、の活用拡大 ・新しいすのこ適正変更 ・会議時間が職員の負担にならない。		
			実施																				
12	(7)	適正利益の確保と安定した運営。	①入院者数の減少、入退居の迅速な手続きにより空床を減らし稼働率の維持、向上を目指す。 ②排泄ケア加算、褥瘡ケア加算等、ターミナルケア加算を評価、実践し取得する	課長主任	計画				会議で入院者・退居者のカンファレンスの実施。	各加算の取得								会議で入院者・退居者の要因分析を実施。			・年間稼働率:特養98%以上、ショート87%以上。 ・入退居時の空床日数平均7日間以内。 ・特養:目標介護保険収入円。 ・ショート:目標介護保険収入円。 ・新たな加算の取得		
			実施																				

事業所名(部署)

鷹栖町デイサービスセンター はびねす

1. 基本方針

『良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る』

2. 重点目標

- (1) 利用者が選択できる多種多様なサービス提供に努めます。
 (2) 職員個々の基礎介護力と専門性の向上に努めます。
 (3) ICTを活用し職場環境の改善、業務効率化を図ります。
 (4) 適正利益の確保と安定した運営を行います。

3. 事業所(係)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
1	(1)	魅力あるデイサービス 充実したアクティビティ	①常に事業所内が清潔感に包まれ、利用者にとって心地よい居場所と空間を整える。	継続	谷	成田 藤川
2	(1)		①魅力ある製作レクリエーション(ハンドメイド)、楽しめる脳トレ、 <u>コロナ禍でも感染対策を行った、外出行事の実施。</u>	新規／継続	成田	新井
3	(1)		①コロナウイルス感染予防を考慮した食事の時間を提供し、「馴染みの仲間たちとのおいしい食事の場」を提供する。	継続	守谷	谷
4	(1)	自立支援プログラムの <u>充実</u>	① <u>新規マシンを導入</u> しリハビリテーションプログラムの拡充を図る。 ②ウォーキングトラベルプラン(デイ内歩行コース)を実施。距離に応じて評価、表彰しリハビリ意欲の向上に繋げる。 ③定期的な身体評価を科学的介護情報システム(LIFE)を活用しADL維持加算の算定を行う。 ④上記①～③までの取り組みを科学的介護情報システム(LIFE)を活用し、フィードバック受け介護の質の向上を図る。	新規／継続	藤川 大矢	成田 大河原

3. 事業所(係)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
5	(1)	地域資源の活用	①地域のボランティアとの連携を図り、アクティビティのプログラムを充実させる。 ②利用者が地域の活動に積極的に関われる様支援を行う。(子供体験教室、地域サロン活動への参加・訪問)	新規／継続	谷	大河原
6	(2)	介護予防と重度化予防	①総合記録シートの導入とケアチェックを行い、 <u>入院リスクを軽減し中重度化予防に取り組む。</u>	継続	谷	成田 藤川
			②認知症予防のための学習療法の充実を図る。	継続	成田	清水
7	(2)	安心して利用できる デイサービスづくり	①事故・感染症の予防を行い、安心・安全なデイサービスをつくる。 ②緊急時に迅速に対応できる様に、情報の整備を行う。研修に参加し、適切な対応ができる様に備える。 デイ会議にて、リスクの高い方のカンファレンスを行う。 ③病欠の利用者の情報の収集を行い、医療連携を迅速に行える様に相談助言を行う。 ④コロナウイルス感染予防の研修を定期的開催・参加し、最新の感染予防・感染対応について学習する。	継続	藤川	清水
8	(2)	ケアスキル 接遇マナー向上	①研修・勉強会・接遇マナーに参加し、ケアスキルの向上、接遇マナーの基本を学ぶ。 ②全職員が認知症介護の理念、知識、技術を習得する。	継続	谷	成田
9	(3)	スタッフの働きやすさ 働きがい向上と業務改善	①業務改善を定期的に行い、無理無駄を削減する。 ②スタッフ自身も生き活きと働けるよう、長期休暇(7連休 有給5休)を計画的に取得する。 ③介護記録のICT化導入・ <u>活用により、サービスの質向上と働きやすい職場を作る。</u>	継続	谷 藤川	成田
10	(4)	適正収益の確保	①定期的に居宅・地域包括にデイ活動の周知宣伝を行い、新規利用者の獲得を行う。 ②老人会内覧会を行い利用者を獲得する。 ③適切な利益の確保し、健全な経営ができる様にする。 (令和4年度 実利用者数102.0名/月 平均利用者数 23.9名 介護報酬 61,460,459円 (R4当初予算)) (令和3年度 実利用者数 94.3名/月 平均利用者数 22.9名 介護報酬 57,134,405円 (R3実績見込))	継続	谷	大河原

部門(事業所)名 デイサービスはぴねす (評価基準)S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 №	重点目標 との連動	取組み事項	取組み内容	実施 担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間 評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール (達成目標)	最終 評価	評価内容				
1.2.3	(1)	魅力あるデイサービス 充実したアクティビティ	常に事業所内が清潔感に包まれ、利用者にとって心地よい居場所と空間を整える。 ・定期的な模様替え(テーブルクロス、家具の配置等) ・観葉植物の管理、配置 ・エアコンの設置	谷/成田/藤川	計画	テーブルクロス発注 藤川	テーブルクロス(夏)藤川 エアコン発注(e型、ホール)谷	観葉植物管理 谷・利用者						観葉植物管理 レイアウト変更	テーブルクロス(冬) 藤川					①テーブルクロスの交換を季節ごとにい行いマンネリ化を防ぐ ②観葉植物の管理、育成を行い潤いのある環境を作る ③エアコンを設置し夏の暑い時期もデいで快適に過ごせる					
				実施																					
			魅力ある製作レクリエーション(ハンドメイド)、楽しめる脳トレ、コロナ禍でも感染対策を行った、外出行事の実施。	成田/新井 若井	計画	製作レク 誕生日写真開始	外出した いところアンケート 新井 花見 新井	はひねず ガーデ ン 成田 日よけ設置 谷 ほのぼの連	手作りおやつ 成田/守 谷	外出					紅葉ツアー 新井	手作りおやつ 成田/守 谷 保育園交流 準備 岩井	ハンドメイド 作品展 サンホール はび 成田		節分	卒園祝い 若井	①感染予防を考慮しつつ、ソーシャルディスタンスを保った楽しいイベントの開催 ②製作レク月1回以上の実施 ③感染予防を徹底し安心安全な外出行事の実施				
				実施																					
			コロナウイルス感染予防を考慮した食事の時間を提供し、「馴染みの仲間たち」との楽しい食事の場を提供する。	守谷/谷	計画								野外焼き肉 (BBQ)守谷									①コロナウイルス感染予防を徹底した昼食の提供 ②感染予防を行い、野外でのバーベキューの開催			
				実施																					
4	(1)	自立支援プログラムの充実	新規マシンを導入しリハビリテーションプログラムの拡充を図る。 ウェルトニック レッグエクステンションの購入のより、マシントレーニングの効果の拡充。	大矢/大河原	計画															①レッグエクステンションの購入設置 プログラム強化					
				実施																					
			ウォーキングトラベルプラン(ダイ内歩行コース)を実施。距離に応じて評価、表彰しリハビリ意欲の向上に繋げる。	大矢/藤川	計画				WTPの実施													①ウォーキングトラベルプランの実施 歩行訓練の自主化 ②パークゴルフ場の整備、休憩できる環境の整備			
				実施																					
			定期的な身体評価を科学的介護情報システム(LIFE)を活用しADL維持加算の算定を行う。	谷/大矢	計画																	①加算算定 ②フィードバックの活用を行いADL維持向上			
				実施																					
			リハビリ、機能訓練、口腔機能スクリーニング、栄養状況の把握の4つの取り組みを科学的介護情報システム(LIFE)を活用し、フィードバック受け介護の質の向上を図る。	谷/大矢	計画															①フィードバックの活用を行いADL維持向上 (ADL維持加算算定にあたりADLの状況が見える化する)					
				実施																					
5	(1)	地域資源の活用	地域のボランティアとの連携を図り、アクティビティのプログラムを充実させる。	谷/大河原	計画															コロナウイルスの感染状況をふまえ柔軟に対応する。 収束傾向があれば、迅速にボランティアの方々に連絡を取り直間の啓発を要する。 コロナウイルスの感染状況をふまえ柔軟に対応する。 感染予防を行いながら、地域に貢献できる仕組みの検討する。 入院による休件数 2割削減 (R4 28名 R3 35名 見込み)					
				実施																					
6	(2)	介護予防と重度化予防	総合記録シートの導入とケアチェックを行い、入院リスクの軽減し中重度化予防に取り組む。	谷/成田/藤川	計画																				
				実施																					
			認知症予防のための学習療法の充実をはかる。	成田/清水	計画																12名の学習療法の実施(R2 8名)				
					実施																				
7	(2)	安心して利用できる デイサービスづくり	事故・感染症の予防を行い安心・安全なデイサービスをつくる。	藤川/清水	計画																インフルエンザ、ノロウイルス・コロナウイルス感染0件 介護事故発生3割削減 (R4 5件 R3 6件見込み) 会議にて困難事例の検討を行う				
				実施																					
			緊急時に迅速に対応できる様に情報の整理を行う。研修に参加し適切な対応ができるように備える。デイ会議にて、リスクの高い方のカンファレンスを行う。	藤川/清水	計画																				
				実施																					
			病欠の利用者の情報の収集を行い、医療連携を迅速に行える様に相談助言を行う。	藤川/清水	計画																		入院による休件数 2割削減 (R2 28名 R3 35名見込み)		
				実施																					
			コロナウイルス感染予防の研修を定期的に開催・参加し、最新の感染予防・感染対応について学習する。	藤川/清水	計画															コロナウイルスのクラスター発生させない					
					実施																				
8	(2)	ケアスキル 接遇マナー向上	研修・勉強会・接遇マナーに参加し、ケアスキルの向上、接遇マナーの基本を学ぶ。全職員が認知症介護の理念、知識、技術を習得する。	谷/成田	計画																基礎介護研修参加 接遇マナー研修の実施 接遇マナーに関する苦情0件 重度化への対応 (平均介護度 R4 1.7 R3 1.59見込み)				
				実施																					

9	(3)	スタッフのやりがいと業務改善	業務改善を定期的に行い、無理無駄を削減する。	谷/成田	計画	リーダー会議にて実施 パート会議実施													オペレーションの見直しを行い、効率化を図る。業務時間内に行える業務を増加させる(環境整備、室内しつらえ、ハンドメイド準備、買い出し等)			
					実施																	
			スタッフ自身も生き活きと働けるよう、長期休暇(7連休)を計画的に取得する。	谷/成田	計画															希望者全員のリフレッシュ休暇取得		
					実施																	
			介護記録のICT化導入・活用により、サービスの向上と働きやすい職場を作る。	藤川/谷	計画																	
					実施																	
10	(4)	適正収益の確保	定期的に居宅・地域包括にデイ活動の周知宣伝を行い、新規利用者の獲得を行う。 老人会内覧会を行い利用者を獲得する。	谷/大河原	計画	毎月第二月曜日居宅営業			ニーズ調査 谷										月間実利用者数 102名/月 目標収益 介護報酬 61,460,459円			
					実施																	
			②適切な利益の確保し、健全な経営ができる様にする。 (令和4年度 実利用者数102.0名/月 平均利用者数 23.9名 介護報酬 61,460,459円 (R4当初予算))	谷	計画																	
			(令和3年度 実利用者数 94.3名/月 平均利用者数 22.9名 介護報酬 57,134,405円 (R3実績見込))		実施																	

事業所名(部署)

介護センターさつき苑

1. 基本方針

良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る

2. 重点目標

- (1) ケアマネジメントの質の向上
- (2) 事業所内のケアカンファレンス・会議・勉強会及び外部研修、外部機関とのケア会議を通じて、ケアマネジメントの実践力を向上
- (3) 地域への貢献を通して、利用者の在宅生活を地域機関・住民と共に支える人的ネットワークを拡充
- (4) 事業所の運営管理を円滑に実施
- (5) 適正利益の確保とリフレッシュ休暇の推進

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
1	(1)	利用者の課題に対し具体的なケアの方針が立てられるように、在宅版トータルケアシートの新しいシステム活用と多職種連携を強化	①在宅版トータルケアシート導入とケアチェック強化(ケアマネ1人4ケースを目標) ②新しいシステム導入(ほのぼの)を活用 ③定期的な事例検討会の実施	継続	山本 正広	山本 裕子
	(1)	「活き活きハピネスプラン」の策定とケアの提供	①利用者の笑顔や喜びを導き出すため、「活き活きはびねすプラン」を策定し、ケアマネジャー自身が外出支援(コーヒー茶ろんでくてく、朝市など)を実施(1ケース)と自分でブログアップ	継続		
	(1)	ケアマネ紹介カードを作成しご利用者様ご家族様の安心及び信頼関係を構築	①紹介カードを作成し、新規ご利用者様ご家族様へ自己紹介の際に配布	新規		

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
2	(2)	専門的知識と技術の向上	①法人内研修(基礎介護力向上等)に参加して知識・技術を習得 ②ケアマネ会議の中で担当スタッフが自ら講師となり研修を実施し知識の向上を図る 地域ケア会議・地域ケアマネジメント会議での研修・カンファレンスを実施 ③外部研修を受講し最新の知識・技術を習得 ④介護支援専門員法令研修の受講(5名)と年2回自己点検用紙にて自主点検を実施 ⑤ケアマネジャーの接遇及びケアマネジメントの満足度を把握するため、満足度調査を実施	継続	坂林	佐藤
3	(3)	地域への貢献	①地域住民に対する講話などにより貢献活動を実施 ②認知症サポーター養成講座受講	継続	佐藤	坂林
4	(4)	マニュアル作成にて業務分担管理	①利用者管理票と減算チェック ②ほのぼのマニュアル作成 ③各業務のマニュアル化(請求業務・物品発注・書類補充・提供票発送)	継続	山本裕子	佐藤
5	(5)	適正利益の確保とリフレッシュ休暇の推進	①目標利用者人数(期初183名→期中189名→期末190名:年間平均利用者数187名) ②目標収益: 26,013 千円 (前年度当初予算25,138千円) ③集中減算資料を年2回(3月～8月・9月～2月)作成 ④全職員が5日間リフレッシュ休暇を取得 ⑤利用者動向の入院者の分析と対策検討・周知	継続	佐々木	

[illegible]

令和4年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名

事業所名(部署)

多機能型グループホーム鷹栖なごみの家

1. 基本方針

『良いケア、良い職場、良い経営をみんなの力で創る』

2. 重点目標

- (1) 知識・技術の専門性の向上を図り 安全で根拠に基づく介護サービスを提供する
- (2) 主体性をもって介護過程を展開し利用者の満足度を高める
- (3) 職員のチームワークが向上しやりがいと働きがいのある職場をつくる
- (4) 業務の標準化・見える化・効率化を図り、適正利益を確保する

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
1	(1)	ケアの質の向上と安全で根拠に基づくサービスの提供	①ケアチェック、根拠に基づきカンファレンスを実施し、中重度化に対応したケアを提供する ②アセスメントシートの定期更新(ケアプラン更新時) ③安全で予防的なケアに努め事故及び事故の再発を防ぐ(事故件数R3年20件→R4年15件) ④身体拘束及び虐待防止の取り組みを継続して行う(年2回研修実施)	継続	各リーダー	主任
2	(1)	安全で美味しい食事の提供	①より見た目もきれいで美味しいソフト食の提供 ②現病の悪化、既往症の再発予防するための治療食の充実化	継続	各スタッフ	栄養士
3	(1)	疾病の管理と医療的ケアの充実	①ケアチェックを強化し、病気の早期発見及び重症化や再発を防ぐ(入院延べ日数R3年115日→R4年80日) ②誤嚥性肺炎による入院者0名(R3年0名→R4年0名)	継続	リーダー 主任	課長
4	(1)	食中毒・感染症の予防	①感染症対策委員会と連携しながら、コロナウィルス、ノロウィルス、インフルエンザ、食中毒等の感染予防に努める。(集団感染0件) ②非常災害時における訓練と感染症対策訓練を計画・実施し予防意識の向上と万が一の事態に備える。	継続	課長	主任 各リーダー
5	(1)	基礎介護力の向上	①法人全体で基礎介護力向上研修を実施し、より実践的な知識、技術を身につけ専門性の向上を図る ②外部研修の計画・実施	継続	課長	主任

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標 との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
6	(2)	心身機能の維持向上を図る暮らしの充実	①利用者の課題を分析し、計画の立案、目標に向けたケアを展開しADL及びQOLの向上を図る ②楽しみや喜びのあるアクティビティーを計画・実施する	継続	大懸	出倉
7	(3)	働きやすい職場づくり	①不安を取り除き、上司・部下が心を通い合わせるために、定期的に職員面談を実施する ②リフレッシュ8連休の実施と有給休暇の計画的消化 ③退職者を減らし、安定した運営に取り組む(退職者0を目指す) ④ICT、IoTの活用を通じてケアの質向上及び職場環境の改善(介護負担軽減、業務効率化)を図る	継続	課長	大倉
8	(3)	チームワークの向上	①週目標を継続し、具体的な目標を意識して思いを一つにする ②職員が楽しみ・やりがいを見つけ出し、達成感を感じられるよう一年間チームでの目標を決め取り組む(サービス向上発表会等での発表)	継続	リーダー	各スタッフ
9	(5)	業務の効率化	①業務の見直しを行い業務分担を明確にし見える化する ②従来のマニュアルの見直しと整理	継続	主任 リーダー	課長
10	(5)	適正利益の確保	①ケアの質向上により入院者数を減少させ、目標稼働率98%を達成する。(目標介護保険事業収入: 85,200,155 円) ②光熱費に対してのコスト意識を高め、節約に努める(前年度より-3%)	継続	課長	各スタッフ

部門(事業所)名 多機能型グループホーム鷹栖なごみの家

準) S: チャレンジした企画が成功 A: 期待以上の結果 B: 期待通りの結果 C: アクションしたが結果不十分 D: まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標 との連動	取組み事項	取り組み内容	実施 担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間 評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール (達成目標)	最終 評価	評価内容		
1	(1)	ケアの質の向上と安全 で根拠に基づくサービスの 提供	ケアチェック、根拠に基づきカンファレンス を実施し、中重度化に対応したケアを提供 する	主任 リーダー	計画	Wチェック モニタリング カンファレンス							Wチェック モニタリング カンファレンス						ケア困難ケースにおいて随時ケース カンファレンスをし本人の状態を維持 する。				
				実施																			
			アセスメントシートの定期更新(ケアプラン 更新時)	主任 リーダー	計画	ケアプラン更新 同時アセスメントシート更新									ケアプラン更新 同時アセスメントシート更新						アセスメントシートの定期更新を実施 する。		
				実施																			
			安全で予防的なケアに努め、事故及び事 故の再発を防ぐ	主任 リーダー	計画	毎月の会議で の事故報告・ 分析	救命救急研 修						毎月の会議で の事故報告・ 分析						転倒、転落事故7件→5件 薬に関する事故 2件→0件 (事故件数R3年20件→R4年15件)				
				実施																			
			身体拘束及び虐待防止の取り組みを継続 して行う(年2回研修実施)	リーダー	計画				虐待予防 研修							虐待予防 研修			年2回研修を実施する。 身体拘束・虐待0件。				
				実施																			
2	(1)	安全で美味しい食事の 提供	より見た目もきれいで美味しいソフト食の 提供	リーダー 栄養士	計画	ソフト食の 提供					ソフト食 の評価		ソフト食 の見直し	ソフト食 の提供				ソフト食 の評価	嚥下困難な方が安全に食事(口腔 摂取)ができる。				
				実施																			
			現病の悪化、既往症の再発予防するた めの治療食の充実化	リーダー 栄養士	計画	治療食 提供				治療食 評価			治療食 提供					治療食 評価	現病の悪化、既往症の再発予防す る。				
				実施																			
3	(1)	疾病の管理と医療的ケア の充実	ケアチェックを強化し病気の早期発見及 び重症化や再発を防ぐ	主任 リーダー 看護士	計画	体調不良者・ 入院者の分析				健康診断	診断結果の分 析(1年毎との 比較)		体調不良者・ 入院者の分析						病気の発症を防ぎ重症化や再発を させない。 (入院延べ日数日 R3年115日→R4 年80日)				
				実施																			
			誤嚥性肺炎による入院者0名	主任 リーダー 看護士	計画	食事のチェック 口腔ケアの徹 底							食事のチェック 口腔ケアの徹 底						誤嚥性肺炎による入院者0名 (R3年0名→R4年0名)				
				実施																			
4	(1)	食中毒・感染症の予防	感染症対策委員会と連携しながら、コロナ ウイルス、ノロウイルス、インフルエンザ、食 中毒等の感染予防に努める	課長 主任 リーダー				食中毒研修			感染症予防 研修会								食中毒、感染症の集団感染0件				
			非常災害時における訓練と感染症対策訓 練を計画・実施し予防意識の向上と万が 一の事態に備える	課長 主任 リーダー	計画	防護服脱 着訓練					非常災害 訓練		防護服脱 着訓練						非常災害時訓練と感染症対策訓練 の実施。全職員が感染症対策対応 ができる。				
				実施																			
5	(2)	基礎介護力の向上	法人全体で段階別基礎介護研修を実施 し、より実践的な知識、技術を身につけて専 門性の向上を図る	課長 主任						基礎介護 研修			基礎介護 研修	基礎介護 研修		基礎介護 研修			経験・スキルに合わせた研修の実施 により職員のケアのレベルアップが できる。				
			外部研修の計画・実施	課長 主任	計画	認知症実 践者研修	認知症実 践者研修	新任職員 研修										基礎介護研 修 高齢者ケア研 究会参加	外部研修に参加し、ケアの向上を図 る。(職場に1つ以上還元する)				
				実施																			

令和4年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 多機能型グループホーム鷹栖なごみの家 準)S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分 D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容
6	(3)	心身機能の維持向上を図る暮らしの充実	利用者の課題を分析し、計画の立案、目標に向けたケアの展開しQOL及びADLの向上を図る	リーダー各担当	計画			面談による取り組み目標設定	・アセスメント(情報収集・課題分析)実施 ・ケアプラン立案	ケアプランに基づきケアの実施	モニタリングとケアプラン見直し		ケアプラン評価	ケアプランに基づくケアの実施	→	モニタリングとケアプラン見直し	ケアプラン評価	総括、成果の確認(面談)	全職員が、担当利用者のADLとQOLそれぞれの向上を目指したプランを立て、取り組み、成果をふりかえる。		
			楽しみや喜びのあるアクティビティーを計画・実施	リーダー各担当	計画	各ユニットのアクティビティー担当選任	年間計画作成												計画どおり実施することで利用者のQOLの向上を目指す。		
7	(3)	働きやすい職場づくり	不安を取り除き、上司・部下が心を通い合わせるために、職員面談を実施する	主任リーダー	計画			面談の実施						面談の実施					面接を実施することで不安や悩みを軽減・解消する。		
			リフレッシュ8連休の実施と有給休暇の計画的消化	課長主任	計画	連続有給休暇調整		連続有給休暇取得					連続有給休暇取得						1人8日間の連続休暇を計画的に取得し、リフレッシュを図る。(必ず有給を4日つける) 有給休暇は、年間5日以上とする。		
			退職者を減らし、安定した運営に取り組む(退職者0を目指す)	課長主任リーダー	計画	退職者0							退職者0						結婚・出産以外での退職者をださない。		
			ICT、IOTの活用を通じてケアの質向上及び職場環境の改善(介護負担軽減、業務効率化)を図る	課長主任	計画	ICT・IOT導入													ケアの質向上及び職場環境の改善(介護負担軽減、業務効率化)を図る。		
8	(3)	チームワークの向上	週目標を継続し、具体的な目標を意識して思いを一つにする	主任リーダー	計画	毎日の引継で目標を共有する							毎日の引継で目標を共有する						思いを一つにすることで、チームワークの強化を図る。		
			職員が楽しみ・やりがいを見つけ出し、達成感を感じられるよう一年間チームでの目標を決め取り組む(サービス向上発表会等での発表)	主任リーダー	計画	取り組み内容決定	取り組み						取り組み				取り組みのまとめ	サービス向上発表会参加	一つのテーマにチームで取り組み成果を出す。		
9	(5)	業務の効率化	業務の見直しを行い業務分担を明確にする	主任リーダー	計画			業務整理	業務見直し										業務を見直し、業務分担を明確にすることにより、業務の効率を図る。		
			従来のマニュアルの見直しと整理	主任リーダー	計画				従来マニュアルの確認	マニュアルの整備									従来のマニュアルの見直しと整理		
10	(5)	適正利益の確保	ケアの質向上により入院者数を減少させ、目標稼働率98%を達成する(目標介護保険事業収入85,200,155円)	課長主任リーダー	計画	稼働率98%							稼働率98%						長期入院者を出さない。(入院延べ日数80日) 目標介護保険事業収入達成		
			光熱費に対してのコスト意識を高め、節約に努める	主任リーダー	計画			節約運動強化月間	節約運動強化月間		節約運動強化月間			節約運動強化月間			節約運動強化月間		光熱使用量を前年度より3%削減する。		
			新たな加算の取得とLIFEとの情報連携の推進	課長主任リーダー	計画	新加算取得開始													新たな加算を取得し、LIFEからのフィードバックを活用し効果的なサービスを提供する。		

事業所名(部署)

小規模多機能ホーム鷹栖なごみの家

1. 基本方針

『良いケア、良い職場、良い経営をみんなの力で創る』

2. 重点目標

- (1) 知識・技術の専門性の向上を図り 安全で根拠に基づく介護サービスを提供する
- (2) 主体性をもって介護過程を展開し利用者の満足度を高める
- (3) 職員のチームワークが向上しやりがいと働きがいのある職場をつくる
- (4) 業務の標準化・見える化・効率化を図り、適正利益を確保する

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
1	(1)	ケアの質の向上と安全で根拠に基づくサービスの提供	①アセスメントシートの整理と定期的なデータ更新 ②ダブルチェック、ケースカンファレンスを定期的に行い統一したケアを実施する ③安全で予防的なケアに努め事故及び事故の再発を防ぐ(R3年度13件→R4年度10件) ④身体拘束及び虐待防止の取り組みを継続して行う(年2回研修実施)	継続	リーダー	主任
2	(1)	安全で美味しい楽しみのある食事の提供	①個別に合わせた適切な食事形態を提供する ②利用者の嗜好を取り入れた季節感のある食事・行事食を計画し実施する	継続	主任	栄養士
3	(1)	食中毒・感染症の予防	①感染症対策委員会と連携しながら、コロナウィルス、ノロウィルス、インフルエンザ、食中毒等の感染予防に努める。(集団感染0件) ②非常災害時における訓練と感染症対策訓練を計画・実施し予防意識の向上と万が一の事態に備える。	継続	① 石川 ② 主任	課長
4	(1)	疾病の管理と医療的ケアの充実	①ケアチェックを強化し、病気の発症及び重症化を防ぐ。医療と介護連携により、入院での利用休止を増やさない(R3年度名→R4年度1名) ②在宅生活を継続できるよう、ケアマネジメントの強化(訪問サービスの提供で在宅での健康管理を強化し、介護者の介護力を見極め必要な支援・援助を行う) ③総合記録シート・あったかす健康ノートの活用をし、主治医・かかりつけ医との医療連携の強化を図る	継続	① 石川 ② リーダー ③ リーダー	主任
5	(1)	基礎介護力の向上	①法人全体で基礎介護力向上研修を実施し、より実践的な知識、技術を身につけ専門性の向上を図る ②外部研修の計画・実施	継続	主任	リーダー
6	(2)	アクティビティの充実	①楽しみ・喜び・やりがいのあるアクティビティーを計画・実施する(思い出に残るもの、持ち帰りできる物、成果のある物、発表・展示できる物) ②学習療法をより多くの方に参加していただくために、定期的に利用者・ご家族へPRをおこなう。定期的に楽習診断を行い評価を行う	継続	高橋	リーダー
7	(2)	環境を改善し過ごしやすい生活環境を作る	①施設内の装飾品や植物を適切に管理し潤いある生活空間を作る	継続	小林 田中	リーダー

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
8	(3)	働きやすい職場づくり	①不安を取り除き、上司・部下が心を通い合わせるために、定期的に職員面談を実施する ②リフレッシュ8連休の実施と有給休暇の計画的消化 ③退職者を減らし、安定した運営に取り組む(退職者0を目指す) ④ICT、IOTの活用を通じてケアの質向上及び職場環境の改善(介護負担軽減、業務効率化)を図る	継続	① リーダー ② リーダー ③ リーダー ④ 高橋	主任
9	(3)	チームワークの向上	①週目標を継続し、具体的な目標を意識して思いを一つにする ②職員が楽しみ・やりがいを見つけ出し、達成感を感じられるよう一年間チームでの目標を決め取り組む(サービス向上発表会等での発表)	継続	リーダー	主任
10	(4)	業務の効率化	①業務の見直しを行い業務分担を明確にし見える化する ②従来のマニュアルの見直しと整理 ③訪問サービス(安否確認・生活援助・家事援助)専門ケアアシスタントの導入	継続	主任	課長 リーダー
11	(4)	適正利益の確保	①登録人数の維持(R3年度平均登録者24.3名→R4年度平均登録者24名) ②目標介護保険事業収入 61,938,263円(前期:66,328,667円) ③ダブルチェックの徹底と総合記録シートを活用し予防的なケアに努め、長期入院、施設入居を増やさない(R3年度長期入院1名→R4年度1名 R3年度施設入居3名→R4年度3名) ④光熱費に対してのコスト意識を高め、節約に努める(前年度よりー3%)	継続	主任	リーダー

令和4年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 小規模多機能ホーム鷹栖なごみの家 準)S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分 D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標 との連動	取組み事項	取組み内容	実施 担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間 評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール (達成目標)	最終 評価	評価内容
1	(1)	ケアの質の向上と安全 で根拠に基づくサービスの 提供	アセスメントシートの整理と定期的なデータ更新	主任 リーダー	計画 実施	データ更新開始							データ更新						アセスメントシートの整理と定期的なデータ更新		
			ダブルチェック、ケースカンファレンスを定期的に行い統一したケアを実施する	主任 リーダー	計画 実施	Wチェック によるケア カンファレンス							Wチェック によるケア カンファレンス						ケア困難ケースにおいて随時ケースカンファレンスをし本人の状態を維持		
			安全で予防的なケアに努め事故及び事故の再発を防ぐ	主任 リーダー	計画 実施	毎月の会議での事故報告・分析							毎月の会議での事故報告・分析						事故件数前年度比-3件(R3年度13件→R4年度10件) 案に関する事故0件。		
			身体拘束及び虐待防止の取り組みを継続して行う(年2回研修実施)	主任 リーダー	計画 実施				虐待予防 研修										年2回研修を実施する。 身体拘束・虐待0件。		
2	(1)	安全で美味しく楽しみ のある食事の提供	個別に合わせた適切な食事形態を提供する	高橋 栄養士	計画 実施	食事ケア チェック							食事ケア チェック						食事量の安定と誤嚥性肺炎0件		
			利用者の嗜好を取り入れた季節感のある食事、行事食の計画し実施する	高橋 栄養士	計画 実施	出勤 お茶会 祝日行事食	祝日行事食 お茶会	外食ツアー お茶会	週し素麺 お茶会	お茶会	祝日行事食 外食ツアー お茶会		祝日行事食 お茶会	出勤 祝日行事食 お茶会	クリスマス 忘年会 お茶会	おせち料理 祝日行事食 お茶会	祝日行事食 室内パーティー お茶会	祝日行事食 お茶会	満足度調査を実施し、食事に関して90%が良いの評価。		
3	(1)	食中毒・感染症の予防	感染症対策委員会と連携しながら、コロナウイルス、ノロウイルス、インフルエンザ、食中毒の感染予防に努める(集団感染0件)	主任 看護師 課長	計画 実施			食中毒研修					感染症予防 研修会						食中毒、感染症の集団感染0件		
			非常災害時における訓練と感染症対策訓練を計画・実施し予防意識の向上と万が一の事態に備える。	主任 リーダー 課長	計画 実施	防護服脱 着訓練					非常災害 訓練		防護服脱 着訓練						非常災害時訓練と感染症対策訓練の実施。全職員が感染症対策対応ができる。		
4	(1)	疾病の管理と医療的ケア の充実	ケアチェックを強化し、病気の発症及び重症化を防ぐ。医療と介護連携により入院での利用休止を減らす	看護師 主任	計画 実施	的確なケア チェック、受診 時の同行支援 必要者随時 同行							的確なケア チェック、受診 時の同行支援 必要者随時 同行						健康管理・病状の把握(利用者全員、血液検査データを提出してもらう) 入院による利用休止を増やさない。 (R3年度1名→R4年度1名)		
			在宅生活を継続できるよう、ケアマネジメントの強化(訪問サービスの提供で在宅での健康管理を強化し、介護者の介護力を見極め必要な支援・援助を行う)	看護師 主任	計画 実施	再アセスメント 在宅医療総合 記録シート導入 着ピックアップ	モニタリング	モニタリング	モニタリング	モニタリング	評価 カンファレンス サービス提供 の見直し		在宅医療総合 記録シート導入	モニタリング	モニタリング	モニタリング	モニタリング	評価 カンファレンス サービス提供 の見直し	あつたかす健康ノートを使用し、在宅での生活習慣、状況の把握。病状悪化を防ぎ、在宅生活の継続ができる。 (あつたかす健康ノート取り組み3名→5名)		
			総合記録シート・あつたかす健康ノートの活用をし、主治医・かかりつけ医との医療連携の強化を図る。	看護師 主任	計画 実施	受診時同行・ 連携シート持参							受診時同行・ 連携シート持参						受診時の同行、もしくは連携シートの持参で医療連携を図る		
5	(1)	基礎介護力の向上	法人全体で段階別基礎介護研修を実施し、より実践的な知識、技術を身につけ専門性の向上を図る	主任 リーダー	計画 実施					基礎介護研修			基礎介護研修	基礎介護研修		基礎介護研修	基礎介護研修		経験・スキルに合わせた研修の実施により職員のケアのレベルアップができる。		
			外部研修の計画・実施	主任 リーダー	計画 実施								認知症実践者・ 社会福祉士 実習指導者					高齢者ケア研究会参加	外部研修に参加し、ケアの向上を図る。(職場に1つ以上還元する)		
6	(2)	アクティビティの充実	楽しみ・喜び・やりがいのあるアクティビティを計画・実施する(思い出に残る物、持ち帰りができる物、成果のある物、発表・展示できる物)	川口 月担当	計画 実施	月のレク 変わりの湯 作品づくり	花見ドライブ 湯のチャレンジ 季節湯	買い物・外食 ツアー 変わりの湯	ドライブ 変わりの湯	健康祭 町民祭 盆踊り 季節湯	ドライブ・外食 変わりの湯		運動会 買い物ツアー 変わりの湯 作品づくり	出勤 青年会との食 事会 変わりの湯	餅つき 忘年会 さず湯 変わりの湯	変わりの湯	部分 浴内・バー 変わりの湯	餅の節句 変わりの湯	計画どおり実施でき、持ち帰りができる作品作りや成果の見えるアクティビティの継続		
			学習療法をより多くの方に参加していただくために、定期的に利用者・ご家族へPRを行う。定期的に学習診断を行い、評価を行う。	学習療法 マスター	計画 実施	学習療法案内配布	PR用ノボ作成	家族対象見学会計画		学習療法見学会開催			学習療法案内配布						学習療法参加人数の確保 (R3年度2名→R4年度5名)		
7	(2)	環境を改善し過ごしやすい生活環境を作る	施設内の装飾品や植物を適切に管理し潤いある生活空間を作る	小林 田中	計画 実施	月担当しつらえ (植物管理含む)							月担当しつらえ (植物担当管理)						四季の感じられるしつらえを楽しんでいた。植物を置いて担当が管理する。		

令和4年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 小規模多機能ホーム鷹栖なごみの家 準)S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分 D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標 との連動	取組み事項	取り組み内容	実施 担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間 評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール (達成目標)	最終 評価	評価内容	
8	(3)	働きやすい職場づくり	不安を取り除き、上司・部下が心を通い合わせるために、定期に職員面談を実施する	課長 主任 リーダー	計画 実施			面談の実施					面談の実施	――					→	面接を実施することで不安や悩みを軽減・解消する。		
			リフレッシュ8連休の実施と有給休暇の計画的消化	課長 主任	計画 実施	連続有給休暇調整		連続有給休暇取得	――			→	連続有給休暇取得	――					→	1人8日間の連続休暇を計画的に取得し、リフレッシュを図る。(必ず有給を4日つける)有給休暇は、年間5日以上取得。		
			退職者を減らし、安定した運営に取り組む(退職者0を目指す)	課長 主任 リーダー	計画 実施	退職者0		面談				→	退職者0	面談					→	結婚・出産以外での退職者をださない。		
			ICT、IoTの活用を通じてケアの質向上及び職場環境の改善(介護負担軽減、業務効率化)を図る	高橋	計画 実施	ICT-IOT導入		――				→	――						→	ケアの質向上及び職場環境の改善(介護負担軽減、業務効率化)を図る。		
9	(3)	チームワークの向上	週目標を継続し、具体的な目標を意識して思いを一つにする	主任 リーダー	計画 実施	毎日の引継で目標を共有する						→	毎日の引継で目標を共有する	――					→	思いを一つにすることで、チームワークの強化を図る。		
			職員が楽しみ・やりがいを見つけ出し、達成感を感じられるよう一年間チームでの目標を決め取り組む(サービス向上発表会等での発表)	主任 リーダー	計画 実施		取り組み内容決定	取組み	――			→	取組み	――			取り組みのまとめ	サービス向上発表会参加	→	一つのテーマにチームで取り組み成果を出す。		
10	(5)	業務の効率化	業務の見直しを行い、業務分担を明確にし見える化する	課長 主任 リーダー	計画 実施			業務整理	業務見直し	――		→	――						→	業務分担を明確にし見える化することで、業務の効率化を図る。		
			従来のマニュアルの見直しと整理	主任 リーダー	計画 実施			従来マニュアルの確認	マニュアルの整備											従来マニュアルの見直しと整理		
			訪問サービス(安否確認、生活支援・家事支援) 専門 ケアアシスタントの導入	課長 主任	計画 実施	ケアアシスタント募集	ケアアシスタント導入													ケアアシスタント導入し、業務の効率化を図る		
11	(7)	適正利益の確保	登録人数の維持(目標登録人数24名)	主任 リーダー	計画 実施	医療機関等PR・パンフレット確認・補充 待機者状況確認						→	医療機関等PR・パンフレット確認・補充 待機者状況確認						→	登録人数の維持(R3年度平均24.3名→R4年度24名)		
			目標介護保険事業収入61,938,263円	主任 リーダー	計画 実施	登録終了者0 常時待機者の状況確認						→	登録終了者0 常時待機者の状況確認	――					→	目標介護保険事業収入達成		
			ダブルチェックの徹底と総合記録シートを活用し予防的なケアに努め、長期入院、施設入居を増やさない	主任 リーダー	計画 実施	体調不良者・入院者の分析	――					→	体調不良者・入院者の分析	――					→	長期入院での停止者・施設入居での登録終了者を増やさない。(R3年度長期入院停止者1名→R4年度1名)(R3年度施設入居停止者3名→		
			光熱費に対するコスト意識を高め、節約に努める(前年度より-3%)	主任 リーダー	計画 実施		節約運動強化月間	節約運動強化月間	節約運動強化月間					節約運動強化月間			節約運動強化月間			→	光熱費を前年度より3%削減する。	

事業所名(部署)

地域密着型特別養護老人ホーム めくもりの家えん

1. 基本方針

『良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る』

2. 重点目標

- (1) 多職種共同で ケアを提供し、健康で豊かな暮らしをつくる。
- (2) 感染症や災害対策などの予防・防災意識を高める。
- (3) 自主性・主体性を持って介護過程を展開し利用者の満足度を高める。
- (4) チームワークの向上とICTの活用を通じて職場環境の改善を図る。
- (5) 適正利益の確保。

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
1	(1)	多職種が協同し、根拠に基づいたケアを提供する。	①病気の悪化を防ぎ、予防的なケアを実践する。また日々の健康管理を適切に行い、脱水症、低栄養を予防。 ②事故発生時の検証を徹底し、同じ事故の再発を防止。 ③褥瘡の予防、早期発見、発症時の適切なケアを実践。 ④褥瘡のアセスメント、モニタリングをケアプランと連動させて標準化する。 ⑤快適な生活を守るため新規おむつの評価と 拡充 。 ⑥便秘を予防し下剤を減らす取り組みを計画・実践し排泄ケアマネジメントを標準化する。	継続	志知課長 松原主任 設楽主任	佐久間リーダー 谷水看護師 己上栄養士
2	(2)	リスクマネジメントの強化と緊急時の体制づくり。	①感染症対策委員会と連携しながら、コロナウィルス、ノロウィルス、インフルエンザ、食中毒等の感染予防に努める。	継続	志知課長	谷水看護師 己上栄養士
			②非常災害時における訓練と感染症対策訓練を計画・実施し予防意識の向上と万が一の事態に備える。	継続	尾上部長	志知課長
3	(1)	安全で美味しく楽しい食事の提供。	①食中毒対策を厳守し、安全な食事を提供。 ②摂食障害者、ターミナル期の方への適切な食事形態や提示方法の提案、実践 ③治療食の提供に幅を設け、病気があっても楽しみのある食事を提供。 ④栄養ケアマネジメントを行い、年齢、病状、摂食状況、活動量を維持できる食事の提供を多職種協同で実施する。 ⑤入居者の嗜好を取り入れた季節感のある食事、行事食の計画・実施。	継続	己上栄養士	松原主任 設楽主任

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
4	(1)	平穏で楽しみや喜びのある暮らしづくり。	①日々の生活の中にご利用者と職員が共に喜びや楽しみが感じられる行事を取り入れ年間レク計画をたて計画的に実施。 ②地域の方々やご家族と共に楽しむことのできる行事を実施。	継続	アクティビティ委員会 志知課長	設楽主任 佐久間リーダー
			④共有スペースの整理整頓と潤いのある生活環境づくり。 ⑤環境委員会による定期的な環境チェックを実施し心地よい環境づくりと清潔・整理整頓の維持する。	継続	環境委員会 志知課長	松原主任 佐久間リーダー
5	(3)	知識・技術の専門性を持ち、働きがいのある職場づくり。	①現任職員が目標を持ち、仕事にやりがいと充実感を持てるよう育成する。 ②介護過程の展開を担当者が行い、個々の生活が穏やかで楽しみのある暮らしをつくる。 ③すべての職員が気持ち良い接遇を実践する。	継続	松原主任 設楽主任	志知課長
6	(4)	業務の効率化と働きやすい職場環境づくり。	①目標を明確にし、研修とOJT内容の個人差がないように統一し、安心して仕事ができるよう新人職員を育成する。 ②業務改善(ファイリング、仕事の見える化、オペレーションの随時見直し等)により安心して働ける職場環境をつくる。 ③外国人スタッフの受入・サポート体制の <u>評価</u> と安心して働ける環境づくりの <u>推進</u> 。 ④介護負担の軽減と業務の効率化を図るため、介護ロボット等の導入とICT・IOT化の推進。 ⑤有給休暇とリフレッシュ休暇(8連休)のほか、3連休の取得を推進。	継続	志知課長	松原主任 設楽主任 佐久間リーダー
7	(5)	適正利益の確保。	①ケアの質向上により入院者を減少させ、目標稼働率(98%)を達成する。(目標介護保険事業収入:102,230,440円) ②全職員がコスト意識を持ち、消耗品、光熱水費の節約に努める。 <u>特におむつに関しては実態を把握し、使用のルール徹底を図りコスト削減につなげる。</u> (前年比使用量-3%) ③新たな加算(褥瘡マネジメント加算・排泄支援加算・ADL維持加算)を取得とLIFEとの情報連携の推進。 ④ <u>市内病院の相談室・老人保健施設と定期的に連絡をとり、待機者の獲得と円滑な新規入居につなげる。</u>	新規 継続	志知課長	松原主任 設楽主任

令和4年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 地域密着特別養護老人ホーム めぐもりの家 えん

〔評価基準〕S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 №	重点目標 との連動	取組み事項	取組み内容	実施 担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間 評価	評価内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール (達成目標)	最終 評価	評価内容	
1	(1)	多職種が協同し、根拠に基づいたケアを提供する。	①病気の悪化を防ぎ、予防的なケアを実践する。また日々の健康管理を適切に行い、脱水症、低栄養を予防。	課長 主任 看護師	計画 実施	ケアチェック とカンファレンス徹底	食事形態見直し	脱水予防確認・水分量の見直し	定期検査 (血液)	定期検査 (血液)	定期健康診断			水分表・食事形態見直し	定期検査 (血液)	定期検査 (血液)	食事形態見直し	定期検査 (血液)	定期検査 (血液)	・脱水症・低栄養・誤嚥性肺炎による入院ゼロ。 ・体調不良時等7日以内のカンファレンス実施。 ・入院50日以内。			
2			②褥瘡の予防、早期発見、発症時の適切なケアを実践。 ③褥瘡のアセスメント、モニタリングをケアプランと連動させて標準化する。 ④便秘を予防し下剤を減らす取り組みを計画、実践し排泄ケアマネジメントを標準化する。	課長 主任 看護師	計画 実施	褥瘡アセスメントの準備	褥瘡アセスメントの実施(4名) 排泄に関するアセスメントの準備	褥瘡アセスメントの実施(4名) 排泄アセスメントの実施(3名)	褥瘡アセスメントの実施(4名) 排泄アセスメントの実施(3名)	褥瘡アセスメントの実施(4名) 排泄アセスメントの実施(3名)	褥瘡アセスメントの実施(4名) 排泄アセスメントの実施(3名)			褥瘡アセスメントの実施(4名) 排泄アセスメントの実施(3名)	褥瘡アセスメントの実施(4名) 排泄アセスメントの実施(3名)	褥瘡アセスメントの実施(4名) 排泄アセスメントの実施(3名)	褥瘡アセスメントの実施(4名) 排泄アセスメントの実施(3名)	以降継続	以降継続	・全入居者の褥瘡リスクのアセスメントの実施を標準化。 ・褥瘡のリスクをスタッフ間で共有し、新たな褥瘡発症をゼロにする。 ・刺激性下剤の使用5%以内の維持。 ・排せつケアに関するアセスメント・計画・評価の標準化と加算の取得。			
3			⑤快適な生活を守るため新規おむつの評価と拡充。	松原主任	計画 実施	評価見直し	評価見直し	評価見直し	評価見直し	評価見直し	評価見直し			評価見直し	評価見直し	評価見直し	評価見直し	評価見直し	評価見直し	・新しいオムツの適切な使用 ・オムツコストの管理			
4			⑥事故発生時の検証を徹底し、同じ事故の再発を防止。	主任 リーダー	計画 実施	事故検証再発防止	→	→	→	→	→			事故検証再発防止	→	→	→	→	→	・事故件数前年比-10%。 ・服薬・骨折事故ゼロ。			
5	(2)	リスクマネジメントの強化と緊急時の体制づくり	①感染症対策委員会と連携しながら、コロナウィルス、ノロウィルス、インフルエンザ等の感染症予防に努める。 ②感染症対策訓練を計画・実施する ③非常災害訓練を実施し、予防意識の向上と万が一の事態に備える。	谷水看護師 尾上部長	計画 実施	感染症研修(新任)	避難訓練(日中想定)							感染症対策確認 加温器設置 避難訓練(夜間想定)	インフルエンザ予防接種 感染症予防研修	感染症予防強化	→	→	年間報告	・感染症集団感染ゼロ。 ・コロナウィルスに対応した感染症予防研修の実施。			
6	(1)	安全で美味しく楽しい食事の提供	①食中毒対策を厳守し、安全な食事を提供。	已上栄養士	計画 実施			食中毒予防研修(法人)	給食会議での確認(毎月)	給食会議での確認(毎月)	給食会議での確認(毎月)			給食会議での確認(毎月)	給食会議での確認(毎月)	給食会議での確認(毎月)	給食会議での確認(毎月)	給食会議での確認(毎月)	1年間のモニタリング	食中毒感染者ゼロ。			
7			②摂食障害者、ターミナル期の方への適切な食事形態や提示方法の提案・実践。 ③治療食の提供に幅を設け、病気があっても楽しみのある食事を提供。	已上栄養士	計画 実施	食事形態見直し 適温確認	食事形態見直し 適温確認	食事形態見直し 適温確認	食事形態見直し 適温確認	食事形態見直し 適温確認	食事形態見直し 適温確認	食事形態見直し 適温確認			食事形態見直し 適温確認	食事形態見直し 適温確認	食事形態見直し 適温確認	食事形態見直し 適温確認	食事形態見直し 適温確認		・食事形態の多様化により、全員経口摂取ができる。 ・適時適温ができ、満足度調査80%満足が得られる。		
8			④栄養ケアマネジメントを行い、年齢、病状、摂食状況、活動量を維持できる食事の提供を多職種協同で実施する。	已上栄養士	計画 実施	ケアマネジメント カンファレンス 評価	→	→	→	→	→			食事形態見直し 適温確認	→	→	→	→	→	・状態や健康状態に合わせた食事提供を実施できる。			
9			⑤入居者の嗜好を取り入れた季節感のある食事、行事食の計画・実施。	已上栄養士	計画 実施		開設記念 こどもの日 憲法記念日		海の日 さつき祭	お盆 北野神社祭	敬老の日 秋分の日			体育の日	文化の日 勤労感謝の日	クリスマス 忘年会 天皇誕生日	おせち料理 成人の日	節分 建国記念日	ひな祭り 春分の日	・年間計画に基づいた行事食の実施。 ・満足度調査を実施し、食事に関して80%が良いの評価を得る。			
10	(1)	平穏で楽しみや喜びのある暮らしづくり	①日々の生活の中にご利用者と職員が共に喜びや楽しみが感じられる行事を取り入れ、年間レク計画をたて計画に基づいて実施。 ②地域の方々やご家族と共に楽しむことのできる行事を実施。 ③ご家族が安心できるように、毎月電話にてご様子をお伝えする。	アクティ ビティ委 員会	計画 実施	ご家族への連絡 (以降毎月実施)	花見 チャレンジデー 菖蒲湯	花壇整備 運動会見学	さつき祭 焼肉会	夕涼み会 北野神社祭	収穫祭			りんご湯	新そば祭り	クリスマス会 忘年会 ゆず湯		豆まき	ひな祭り 年間報告	・ご入居者とご家族が楽しく、笑顔あふれる思い出ができる。 ・職員も楽しむことのできる行事の実施。 ・ブログを計画通りアップする。 ・ボランティアに感謝の気持ちを伝えることができる。			
11			④共有スペースの整理整頓と潤いのある生活環境づくり。 ⑤心地よい環境づくりと清潔・整理整頓の維持のため、環境委員会による定期的な環境チェックの実施	環境委員 会	計画 実施	春のしつらえ 環境委員会による環境チェック(以降、毎月継続)	環境チェック	夏の準備 環境チェック	夏のしつらえ 環境チェック	秋の準備 環境チェック	秋のしつらえ 環境チェック 委員会活動報告			冬の準備 環境チェック	冬のしつらえ 環境チェック	環境チェック	環境チェック	環境チェック	年間報告 環境チェック	・季節に合わせた環境作りができる。 ・環境委員会の定期的なチェックの実践と職員の環境に関する意識向上を図る。 ・植物を増やし適切に管理する。			

令和4年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 地域密着特別養護老人ホーム ぬくもりの家 えん

[評価基準]S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 №	重点目標 との連動	取組み事項	取組み内容	実施 担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間 評価	評価内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール (達成目標)	最終 評価	評価内容	
12	(3)	知識・技術の専門性を持ち、働きがいのある職場づくり。	①介護過程の展開を担当者が行い、個々の生活が穏やかで楽しみのある暮らしづくり。	松原主任 設案主任	計画 実施	介護過程の展開の継続実施	→	→	各担当がモニタリング〜ケアプランの立案	→	→			介護過程の展開ケアプランの立案	→	→	→	→	→	・スタッフが担当入居者1名の介護過程の展開ができる。 ・ケアアシスタントからケアプランの立案まで担当スタッフができるようになる。			
13			②基礎介護知識・技術を段階別に行い、重度化対応や根拠に基づくケアを実践する。 ③すべての職員が気持ち良い接遇と介護専門職としての自覚を持ち働く。 ④現任職員が目標を持ち、仕事にやりがいと充実感が持てるよう育成する。	課長 主任 リーダー	計画 実施	接遇・マナー研修 全国先端ケア研究会	救急救命研修 認知症介護実践者研修	定期面談	全道老人福祉施設研究発表大会 虐待予防研修	ターミナルケア研修	認知症実践リーダー研修 基礎介護研修			感染症予防研修・基礎介護研修	基礎介護研修・定期面談(後期)	虐待予防研修	基礎介護研修	基礎介護研修	サービス向上発表会(澤田)	・現任職員が研修等を通じて成長ができる。 ・すべての職員が気持ちのよい接遇ができる。 ・現任職員の退職ゼロ			
14	(4)	業務の効率化と働きやすい職場環境づくり。	①目標を明確にし、研修とOJT内容の個人差がないように統一し、安心して仕事ができるよう新人職員を育成。	課長 主任 リーダー エルダー	計画 実施	1週間毎の面談	1週間毎の面談	新任職員研修 2週間毎の面談 定期面談(前期)	面談	面談	6ヶ月面談								12ヶ月面談	・新任職員の退職ゼロ。			
15			②業務改善により安心して働ける職場環境をつくる。	志知課長 松原主任 設案主任	計画 実施	業務改善(以降)書類の整理	オペレーションの見直し①	→	→	→	オペレーションの見直し②			業務改善	→	オペレーションの見直し③	→	→	→	オペレーションの見直し④	・業務改善を随時行い、働きやすい環境をつくる。 ・退職者ゼロ。		
16			③介護負担の軽減と業務の効率化を図るため、介護ロボット等の導入とICT・IOT化の推進。	志知課長 松原主任 設案主任	計画 実施	介護記録の電子化導入 Hug運用評価見直し	運用評価見直し	運用評価見直し	運用評価見直し	運用評価見直し	運用評価見直し			運用評価見直し	運用評価見直し	運用評価見直し	運用評価見直し	運用評価見直し	運用評価見直し	・介護記録の電子化への運用切り替えと定着 ・介護ロボットの導入やIOT・ICTの活用により労働環境を向上する。			
17			④有給休暇とリフレッシュ休暇(8連休)と3連休の計画的取得を推進。	松原主任	計画 実施	連休取得実績確認	→	→	→	→	→			連休取得実績確認	→	→	→	→	→	・常勤職員全員が8連休と取得できる。 ・3連休の計画的取得の推進			
18	(5)	適正収益の確保	①ケアの質向上により入院者を減少させ、目標稼働率を達成する。 ②全職員がコスト意識を持ち、消耗品費高熱水費の節約に努める。 ③新たな加算を取得とLIFEとの情報連携の推進。 ④市内病院の相談室・老人保健施設と定期的に連絡をとり、待機者の獲得と円滑な入居につなげる。	志知課長	計画 実施	業績・収支状況確認 (毎月継続) LIFEへの情報提供 病院・老健への連絡	→	→	→	→	上半期評価			業績・収支状況確認 (毎月継続) 病院・老健への連絡	→	→	→	→	年間報告	・稼働率98%目標達成。(目標介護保険収入102,443,177円) ・毎月の業績を確認する。 ・消耗品の支出を確認し、コスト意識を高める。(おむつ、電気、水道、灯油使用量-3%) ・新たな加算を取得する。 ・退居から新規入居までの期間を10日以内にする。			

事業所名(部署)

小規模多機能ホーム めくもりの家えん

1. 基本方針

『良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る』

2. 重点目標

- (1) 健康で豊かな生活を支えられるよう、多職種共同でケアを提供する。
 (2) 感染症や災害対策などの予防・防災意識を高める。
(3) 利用者の地域での暮らしを支えるために、家族・地域住民とのつながりを強め、活かす。
 (4) 知識・技術の専門性を持ち、自主性・主体性を持って介護課程を展開し、利用者の満足度を高め、自ら働きがいのある職場をつくる。
 (5) チームワークの向上とICT活用を通じて、ケアの質の向上と職場環境の改善を目指す。
 (6) 適正利益の確保。

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
1	(1) (2) (4)	<u>多職種協同を強化し、根拠に基づいたケアの提供につなげる。</u>	①看護職員・介護職員・栄養士と協同を図り、日々の健康管理を適切に行う(水分・必要栄養量の確認と把握)。医療と介護の連携により、入院による停止者ゼロを目指す(R3 1件→ 0件)。	継続	佐藤主任	林リーダー 小野看護師 己上栄養士
			②事故発生時の検証を徹底し、同じ事故の再発を防止(R3 18件(予測)→ 15件)。特に薬に関する事故を前年度件数より -30%(R3 6件(予測) → 4件)。	継続	寒河江	リスクマネジメント委員会
			③退院支援のシステム化をすすめ、入院時に迅速な状況把握を行い、在宅復帰への支援を提供する。	継続	佐藤主任	林リーダー 小野看護師
2	(2)	リスクマネジメントの強化と緊急時の体制づくり。	①感染症対策委員会と連携しながら、コロナウィルス・ノロウィルス・インフルエンザ・食中毒等の感染予防に努める(集団感染 0件)。 ②感染症発症者が在宅では対応困難な場合の対応策と支援内容の明確化。 感染症発生時の対応策の明確化と職員への定期的な研修の実施。	継続	佐藤主任	小野看護師 志知課長
3	(1) (4)	安全で美味しく楽しい食事の提供。	①食中毒対策を厳守し、安全な食事を提供する。 ②栄養スクリーニングを行い、年齢・病状・家庭の状況をみて、摂食状況・活動量を維持できる食事の提供を多職種連携で実施する。 ③利用者の嗜好を取り入れた季節感のある食事や、行事食を計画・実施する。満足度調査による評価の実施。	継続	己上栄養士	佐藤主任 林リーダー

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標 との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
4	(1) (4)	平穏で楽しみや喜びのある暮らしづくり。	①コロナ禍の中にも、日々の生活の中にご利用者と職員が共に喜びや楽しみが感じられる行事を取り入れ、思い出をつくる。 ②利用者・家族に成果の見えるアクティビティの実施。	継続	林リーダー	アクティビティ委員会
			③介護過程の展開を担当者が行い、個々の生活が穏やかで楽しみのある暮らしづくり。 ④アセスメントを見直し、利用者個々の望む暮らしに結び付けたケアを提供する。	継続 新規	林リーダー	佐藤主任
			⑤植物を適切に管理し、潤いのある生活環境をつくる。 ⑥密を避けた心地よい空間作りと、清潔・整理整頓の維持。	継続 新規	澤田	環境委員会 林リーダー
5	(3)	<u>家族・地域住民との連携・協働の推進</u>	①地域住民の学習療法サポーター再開に向けて検討を行い、役割と生きがいをつくる。また、サポーター間の意見交換や実施報告等の機会を設ける。	継続	寒河江	佐藤主任
			②2ヶ月に1回の運営推進会議開催と家族会・ぬくもり友の会・行政機関等の第三者からの意見や要望を取り入れた健全で地域に根づいた事業所運営を行う。	継続	佐藤主任	志知課長
			<u>③地域との連携による緊急時(火災)の体制を整備し、災害時の対応について協力を得る。</u> 年2回、訓練を実施。	継続	佐藤主任	尾上部長
6	(4) (5)	新任・現任職員の育成と、働きやすくチームワークの高い職場の風土づくり。 <u>ICT活用の推進。</u>	①基礎介護知識・技術を段階別に行い、重度化対応や根拠に基づくケアを実践する。	継続	佐藤主任	林リーダー
			②すべての職員が気持ち良い接遇ができる。 ③現任職員が目標を持ち、仕事にやりがいと充実感が持てるよう育成する。 ④業務改善(仕事の見える化、ファイリング、オペレーションの見直し等)により安心して働ける職場環境をつくる。 ⑤有給休暇とリフレッシュ休暇(8連休)のほか3連休の取得の推進。	継続 新規	林リーダー	佐藤主任
			<u>⑥ICT活用により、ケアの質の向上および職場環境の改善を図る。</u>	継続	林リーダー	佐藤主任
7	(6)	適正利益の確保。	①利用者目標人数23.5名(R3 24.9名)。 (目標介護保険事業収入 63,418,234円) ②市内病院の相談室・老人保健施設を訪問し、待機者の獲得及び新規利用につなげる。 町内の児童民生委員の総会や地域の会合に参加し、小規模多機能ケアへの理解を広める。	継続	佐藤主任	林リーダー
			③全職員がコスト意識を持ち、消耗品費・光熱水費の節約に努める。	継続	澤田	環境委員会 佐藤主任

令和4年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 小規模多機能ホーム めくもりの家 えん

〔評価基準〕S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どりの結果 C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 №	重点目標 との連動	取組み事項	取組み内容	実施 担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間 評価	評価内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール (達成目標)	最終 評価	評価内容
1	(1) (2) (4)	健康で穏やかな生活を 支えられるよう、多職種が 協同し、根拠に基づいた ケアを提供することで豊 かな暮らしづくりを行う。	①看護職員・介護職員・栄養士と協同を図り、日々の健康管理を適切に行う(水分・必要栄養量の確認と把握)。医療と介護の協同により、入院による停止者ゼロを目指す(R3 1件→ 0件)。	主任 リーダー 看護師	計画	ケアチェック とカンファレ ンス徹底	水分表・食 事形態見直 し	脱水予防研 修	ハイリスク者 の血液デー タ確認	ハイリスク者 以外の血液 データ確認	モニタリング ダブルチェッ ク		水分表・食 事形態見直 し	ハイリスク者 の血液デー タ確認	ハイリスク者 以外の血液 データ確認	食事形態見 直し	水分表・食 事形態見直 し	モニタリング ダブルチェッ ク	・脱水症、低栄養、誤嚥性肺炎による 入院ゼロ。 ・体調不良時等7日以内のカンファレン ス実施。 ・入院による停止者ゼロ。			
2			②事故発生時の検証を徹底し、同じ事故の再発を防止する。 特に薬に関する事故を前年度件数より30% (R3 6件→ 4件)に抑える。	寒河江 リスクマネ ジメント委 員会	計画	事故検証 会議での事 故報告・分 析	→	→	→	→	→		事故検証 会議での事故 報告・分析	→	→	→	→	→	・事故件数前年比-20%。 ・薬の事故件数前年比-30%。 ・転倒による入院ゼロ (R3年度 0件)			
3			③退院支援のシステム化を行い、入院時、迅速な状況把握を行い、在宅復帰への支援を提供する。	主任 リーダー 看護師	計画	入院発生時の 対応マニユー アル作成	入院発生時 対応実施	→						入院発生時 対応実施	→						・入院発生時の対応マニュアルを作 成。 ・入院1週間以内に、医療相談室と連携 を取る。	
4	(2)	リスクマネジメントの強化 と緊急時の体制づくり	①感染症対策委員会と連携しながら、コロナウイルス、ノロウイルス、インフルエンザの、食中毒等の感染予防に努める。 ②感染症発症者が在宅では対応困難な場合の対応策と支援内容の明確化。 利用発生時の対応策の明確化と職員への定期的な研修の実施。	主任 看護師 栄養士	計画	感染症研修 (新任)	避難訓練 (日中想定)	感染症発症時 に在宅対応困 難者への対応 策マニュアル 確認と研修			感染症予防 研修(法人)		感染症対策確 認 加重症設置 避難訓練(夜 間想定)	インフルエン ザ予防接種 感染予防強 化	感染予防強 化	→	→	年間報告	・在宅対応困難者への対応策マニユー アルを作成。 ・感染症集団感染ゼロ。			
5	(1) (4)	安全で美味しく楽しい、食 事の提供	①食中毒対策を厳守し、安全な食事を提供する。	栄養士 調理員 感染症対策 委員会	計画			食中毒予防 研修(法人)	給食会議で の確認(毎月)	給食会議で の確認(毎月)	給食会議で の確認(毎月)		給食会議で の確認(毎月)	給食会議で の確認(毎月)	給食会議で の確認(毎月)	給食会議で の確認(毎月)	給食会議で の確認(毎月)	1年間のモニ タリング	・食中毒感染者ゼロ。			
6			②栄養スクリーニングを行い、年齢・病状・家庭の状況をみて、摂食状況・活動量を維持できる食事の提供を多職種協同で実施する。	栄養士 調理員 主任	計画	ケアマネジ メント カンファレン ス開催	→	→	→	→	→		食事形態見 直・適温確 認	→	→	→	→	→	・状態や健康状態に合わせた食事提供 を実施できる。			
7			③利用者の嗜好を取り入れた季節感のある食事や、行事食を計画・実施する。満足度調査による評価の実施。	栄養士 調理員 アクティ ビティ委 員会	計画	毎月のおや つの日 の設 定と実施	開設記念 こどもの日 憲法記念日	海の日 流しソー ン	お盆 北野神社 参り・物ツアー	敬老の日 秋分の日			体育の日 出前の日	文化の日 勤労感謝 の日	クリスマス 忘年会	おせち料理 成人の日	節分 建国記念 日 天皇誕生日	ひな祭り 春分の日	・年間計画に基づいた行事食の実施。 ・満足度調査を実施し、食事に関して 80%が良いの評価を得る。			
8	(1)	平穏で楽しみや喜びのある 暮らしづくり	①コロナ禍の中にも、日々の生活の中に利用者と職員が共に喜びや楽しみが感じられる行事を取り入れ、思い出をつくる。	リーダー アクティ ビティ委 員会	計画	毎月のおや つの日 の設 定と実施	花見 チャレンジ デー	花壇整備 畑作の 運動会見学	さつき祭 焼肉会	夕涼み会 北野神社 参り 買い物ツアー	長生き感謝 祭 収穫祭		りんご湯	新そば祭	ゆず湯 クリスマス 忘年会	初詣	豆まき バレンタイン	ひな祭り ホワイトデー 年間報告	・ご利用者が楽しく、笑顔あふれる思 い出ができる。 ・職員も楽しむことができる行事の実 施。 ・ブログを計画通りアップする。 ・ボランティアに感謝の気持ちを伝え ることができる。			
9			②利用者・家族に成果の見えるアクティビティの実施。	リーダー アクティ ビティ委 員会	計画		創作系アク ティビティ計 画作成	創作系アク ティビティの 実施	実習診断評 価	創作系アク ティビティの 実施	創作系アク ティビティの 実施		創作系アク ティビティの 実施	創作系アク ティビティの 実施	創作系アク ティビティの 実施	実習診断評 価	創作系アク ティビティの 実施	・満足度調査を実施し、80%が良いの 評価。				
10			③介護過程の展開を担当者が行い、個々の生活が穏やかで楽しみのある暮らし作り。	リーダー 主任 各担当	計画		介護過程再 開に向けた 準備	介護過程再 開に向けた 準備	各担当がモニ タリング・ケア プランの立案	→	→		介護過程の展 開・ケアプラン の立案	→	→	→	→	→	・スタッフが担当利用者2名の介護過程 の展開に取り組める。 ・再アセスメントからケアプランの立案 までを、担当スタッフができるようになる。			
11			④アセスメントを見直し、利用者個々の望み・暮らしに結びつけたケアを提供する。	リーダー 各担当	計画	アセスメントの 見直し (2名)	アセスメントの 見直し (2名)	アセスメントの 見直し (2名)	アセスメントの 見直し (2名)	アセスメントの 見直し (2名)	アセスメントの 見直し (2名)		アセスメントの 見直し (2名)	アセスメントの 見直し (2名)	アセスメントの 見直し (2名)	アセスメントの 見直し (2名)	アセスメントの 見直し (2名)	アセスメントの 見直し (3名)	・ひと月に2名のアセスメントを見直す。			
12			⑤植物を適切に管理し、潤いのある生活環境をつくる。 ⑥密を避けた心地よい空間作りと、清潔・整理整頓の維持。	澤田 環境委員 会 リーダー	計画	春のしつらえ 居室環境確認 植物の手入れ (以降継続)	→	夏の準備	夏のしつらえ	秋の準備	秋のしつらえ 委員会活動 報告		冬の準備 居室環境確認 植物の手入れ (以降継続)	ハロウィン飾 り	クリスマス飾 り お正月飾り	冬のしつらえ		春の準備 年間報告	・しつらえにより、季節を感じることが できる。 ・利用者の居室環境を清潔に維持でき る。 ・植物を枯らさない。			
13	(3)	ご家族・住民との協働	①地域住民の学習療法サポーター再開に向けた検討を行い、役割と生きがいをつくる。また、サポーター間の意見交換や実施報告等の機会を設ける。	寒河江	計画	学習療法サ ポーター再開 に向けた他事 業所の情報収 集	学習療法サ ポーター再開 に向けた他事 業所の情報収 集		学習療法サ ポーター交 流会	学習療法サ ポーター再開						学習療法サ ポーター交 流会	友の会総会 にて報告	・ボランティアとの交流を再開できる。 ・学習療法サポーター交流会にて、やり がいや役割を再確認することができる。				
14			②2ヶ月に1回の運営推進会議開催と家族会・めくもりの友の会・行政機関等の第三者からの意見や要望を取り入れた健全で地域に根付いた事業所運営を行う。	課長 主任	計画	運営推進会 議	運営推進会 議	運営推進会 議	運営推進会 議				合同運営推 進会議		運営推進会 議・友の会 新年会		運営推進会 議・友の会 総会	・計画通りに実施できる。				

令和4年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 小規模多機能ホーム ぬくもりの家 えん

〔評価基準〕S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 №	重点目標 との運動	取組み事項	取組み内容	実施 担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間 評価	評価内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール (達成目標)	最終 評価	評価内容
15	(4) (5)	新任・現任職員の育成と働きやすく、チームワークの高い職場の風土づくりICT化による業務の効率化と職員の負担軽減	①基礎介護知識・技術を段階別に行い、高度化対応や根拠に基づくケアを実践する。 ②すべての職員が気持ち良い接遇ができる。 ③現任職員が目標を持ち、仕事にやりがいと充実感が持てるよう育成する。 ④定期面談を行い、不安なく仕事に取り組むことのできる職場環境をつくる。	主任 リーダー	計画	マナーモラル研修	認知症実践者研修 救急救命研修(たかま合同)	定期面談(前期)	虐待予防研修 全道老人福祉施設研究発表大会	ターミナルケア研修	基礎介護研修① 医療連携研究会			基礎介護研修②	基礎介護研修③ 定期面談(後期) 医療連携研究会	虐待予防研修	基礎介護研修④	基礎介護研修⑤ サービス向上発表会		・現任職員が研修等を通じて成長できる。 ・すべての職員が気持ちの良い接遇ができる。 ・現任職員の退職ゼロ。		
16			⑤業務改善(仕事の見える化、ファイリング、オペレーションの見直し等)により安心して働ける職場環境をつくる。 ⑥介護負担の軽減と業務の効率化を図るため、ICT・IOTを活用する。 ⑦有給休暇とリフレッシュ休暇(8連休)のほかに3連休の取得の推進。	主任 リーダー	計画	業務改善・オペレーション見直し 連休の取得	→	→	→	→	→			業務改善・オペレーション見直し 連休の取得	→	→	→	→	業務改善・オペレーション見直し 書類の整理	・業務改善を随時行い、働きやすい環境をつくる。 ・IOT・ICTの活用により労働環境を向上できる。 ・常勤職員全員が8連休を取得できる。		
17	(6)	適正収益の確保	①利用者目標人数23.5名(R3 24.9名)。(目標介護保険事業収入 63,418,234円) ②市内病院の相談室・老人保健施設を訪問し、 <u>訪問者の増加</u> 及び新規利用に繋げる。 町内の児童民生委員総会にて説明会を開く(年1回)。 ③全職員がコスト意識を持ち、消耗品費高熱水費の節約に努める。	主任 澤田	計画	業績・収支状況確認(毎月継続)	業績・収支状況確認(毎月継続) 地域への啓発活動(児童民生委員総会)	→	業績・収支状況確認(毎月継続)	業績・収支状況確認(毎月継続) 啓発活動(病院・老人保健施設)	→			業績・収支状況確認(毎月継続)	→	→	業績・収支状況確認(毎月継続) 啓発活動(病院・老人保健施設)	→	年間報告	・登録者数25名を維持できる(目標介護保険事業収入 63,418,234円)。 ・待機者の状況を常時確認し、半月以上の空枠を作らない。 ・地域への啓発活動が実施できる。 ・消耗品の支出を確認し、コスト意識を高める。(電気、水道、灯油使用量-3%)		
					実施																	

事業所名(部署)	サービス付き高齢者向け住宅 めくもりの家たかほ
----------	-------------------------

1. 基本方針

『良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る』

2. 重点目標

- (1) 自分の持てる力を活用して、安心して自分らしい生活を継続できるよう支援する
- (2) 地域住民を支えるため地域貢献を行う
- (3) 職員の専門性の向上
- (4) 適正利益の確保

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
1	(1)	生活支援ならびに状況把握サービスの提供	①入居者一人ひとりに必要なサービス(介護保険サービス・有料サービス・地域資源など)を見極め、入居者・家族への提案や相談、関係各所との連携を速やかに行う ②入居者・家族同士と職員が相互に意見を交換できる機会を設ける(年1回 <u>家族懇談会の計画・開催</u>)	新規・継続	能登	
2	(1)	入居者の健康管理	①入居者へ向けた健康講座の実施(月1回、15分程度) ②アセスメントを徹底し、既往歴や現病歴から起こりうるリスクを念頭に置いて日々の体調確認を行う ③受診・入院へと繋がりがうる体調不良に対して早期に対処する(<u>水分摂取量の把握と摂取機会の確保・嚥下体操等の実施</u>) ④受診や服薬状況などを把握し、必要に応じて主治医や訪問看護との連携を図る ⑤目標年間入院延べ人数7名以内、目標年間入院延べ日数100日以内	新規・継続	能登	藤原
3	(1)	安全で美味しく楽しい食事の提供	①食中毒予防対策を厳守し、安全な食事を提供する ②入居者の摂食状況を確認し、変化に迅速に対応する ③入居者の嗜好を取り入れた季節感のある食事、行事食の計画・実施。満足度調査による評価の実施 ④ <u>給食会議の開催により、調理員の情報共有と技術力向上を目指す(年3回)</u>	継続	已上 栄養士	能登
4	(1)	心身機能の維持向上と日常生活の活性化	①指導士やサポーターの協力を得ながらあったかすリハビリ体操教室・ふまねっと教室を実施し、交流を楽しみながら心身機能の維持向上を図る ②併設のフィットネス倶楽部の利用啓発 ③ <u>昼食前に嚥下体操や転倒予防体操を行うことで機能維持を図る</u>	新規・継続	能登	藤原

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
5	(1)	安全で <u>心地よい</u> 環境づくり	①共有スペースの清掃・整理整頓と、植物に囲まれ潤いのある季節感を感じる生活環境づくり ②施設内設備の点検及び定期的なメンテナンスの実施	継続	能登	藤原
6	(3)	<u>職員の専門性の向上</u>	<u>①夜間当直員・生活支援員を対象に研修(マナー接遇と自立支援・認知症研修)を実施し、知識・技術の習得</u> <u>②法人内研修(基礎介護力向上研修)に参加し、知識・技術の習得</u>	新規	能登	
7	(2)	<u>地域への貢献</u>	<u>①昼食を地域住民に1日5食限定で提供し、外出機会・他者との交流機会をつくる</u>	新規	已上 栄養士	能登
8	(1)	役割のある暮らしの支援	①入居者の有する能力に応じた役割を選定し、声かけをはじめ掲示板や回覧を通して活動への参加を促す ②日々の中で入居者が自発的に活動に取り組めるよう、レクリエーションの道具類を準備する ③入居者の喜びや楽しみにつながるレクリエーションや行事を計画し、実施する <u>④たかほ自治会の発足と運営の助言・サポートを行い、役割とやりがいを持った生活の支援</u>	新規・継続	能登	藤原
9	(4)	適正利益の確保	①満室18名を達成・維持する(R3年度 平均17.5戸、平均実績稼働率97.5%) 目標稼働率97%(17.5戸)、目標事業収益23,727,276円(前期:23,666,058円) ②鷹栖町内・旭川市内・ <u>上川管内</u> の地域包括支援センターを訪問もしくは電話での空室情報提供を行い、待機者獲得につなげる(年4回) ③入居者募集チラシを作成し、近隣地域へ配布 ④広報やブログを通して、魅力を感じてもらえる情報の発信を積極的に行う ⑤全職員がコスト意識を持ち、消耗品費や光熱費、暖房費の節約に努める	継続	能登	

事業所名(部署)

サービス付き高齢者向け住宅 めくもりの家たかほ(第2層支援コーディネーター)

1. 基本方針

『良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る』

2. 重点目標

(1) 住み慣れた地域での生活が継続できるよう、住民と共に支えるネットワークをつくる

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
1	(1)	<u>地域住民との連携協働</u>	<u>①地域住民の学習療法サポーターによる、たかほでの学習療法開始に向けて検討を行い、役割と生きがいをつくる</u> <u>②認知症カフェ(デコぼん茶屋)の開催が、地域住民が主体的に実施できるようサポートする</u> <u>③認知症の方の活躍の場創出(ちょっと大丈夫かな食堂)の再開にむけて地域住民と協働し実施する</u>	新規	能登	

事業所名(部署)	鷹栖町ヘルパーステーションさつき苑
----------	-------------------

1. 基本方針

『良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る』

2. 重点目標

- (1) 根拠に基づく介護サービスを確実に提供するための基盤を整備する。
- (2) 地域と家族の力を活かした事業所運営の基盤を整備する。
- (3) 職業倫理を遵守し、自立支援を念頭においた介護サービスを提供する。
- (4) 自己課題の克服とチーム力の向上を目指し研修プログラムの充実を図る。
- (5) サービスの質向上と職場環境(介護負担の軽減、業務効率化)の改善を図る。
- (6) 適正利益の確保

3. 事業所(係)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
1	(1)	根拠に基づくサービス提供	①丁寧なアセスメントを行い、課題・ニーズを的確に捉え、自立支援の視点から、質の高いサービスを提供する。 ②訪問後の報告を受け、次回訪問時の留意点をヘルパーに伝え、きめの細かいサービスを提供する。 ③サービス提供後の効果を把握するため、モニタリングを実施し、サービス提供の効果や変更の必要性について確認する。	継続	米澤	上野
2	(1)	サービスの内容及び提供方法の標準化	①利用者の残存能力を活かす関わりを、ヘルパーが共通理解するために、自立支援を具体化したサービス手順書を作成する。 ②定期的な同行訪問を行い、ケアの質の向上やサービス内容の見直しを図ることで業務改善を図る。 ③ヘルパー会議で支援の困難な利用者についてカンファレンスを行い、サービス提供方法の詳細について意見交換し、標準化を図る。 ④ <u>毎月の会議内で介助・支援方法について、具体的に伝え学ぶことで安全で安心できる技術を習得する。</u>	新規／継続	米澤	深瀬
3	(2)	地域・家族との関係強化の取り組み	①ケアマネ・家族と連携して、システムを活用し健康管理を行い、基礎体力の維持向上を図る。 ②茶話会や個別交流会を継続して行い、職員自身が地域を知り、学び、地域住民の潜在しているニーズを把握する。	継続	米澤	伊藤
4	(2)	利用者・家族と職員との交流促進	①利用者・家族と職員との繋がりを大切にし、お互いの交流を促進するため、個別での交流会を開催する。 ②入院中の利用者へ見舞いのカードを送り、退院後の不安への軽減を図る。 ③ <u>長寿を迎えられる利用者を対象に、祝う会を開催し感謝を伝える。</u>	新規／継続	伊藤	米澤

令和4年度事業計画

3. 事業所(係)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
5	(3)	専門性と介護技術の向上	①計画的に外部研修に参加し、知識・技術の習得を図る。 ②ヘルパー研修を通し、各自が講師を行うことで知識と技術の習得を図る。 ③自立支援を行い、利用者のADL・意欲・QOLの向上を図る。	新規／継続	米澤	深瀬
6	(3)	組織的・総合的な安全確保の推進	①身体・精神的虐待ゼロを誓い、適切な接遇態度を身につけ安全確保に徹したサービスを提供する。 ②「業務日誌」を活用し、報告・連絡・相談を徹底することにより、注意事項の確認もれを防ぐ。	継続	米澤	上野
7	(4)	サービス評価と自己研鑽の取り組み	①より質の高いサービス提供ができるよう、各自が目標を立て、会議や研修を通じて個々の能力や技術の向上を図る。 ②利用者満足度調査を実施し、広報「さつき」で情報公表する。	継続	米澤	上野
8	(5)	職場環境の改善	①面談や訪問記録を通し、業務や人間関係等、抱える問題に気づき、感情労働への配慮・精神衛生・チーム力の向上を図る。 ②書庫・事業所内の整理整頓を行い、業務効率をアップさせる。	継続	米澤	深瀬
9	(5)	社内業務の基準化・標準化・効率化	①実績管理の責任・手順を明確にし、月末業務の効率を上げ、請求ミスをゼロにする。 ②ヘルパー車の管理・業務のマニュアル化を行うことで、効率的に統一した業務が行えるようにする。 ③介護記録のICT化を導入・促進し、 <u>全職員が活用できるようにする。</u>	継続	伊藤	米澤
10	(5)	利用者獲得のための営業・広報活動を強化する	① <u>月実人数87人(R3, 85人)新規利用者50人(R3, 人)月間述べ訪問回数902回(R3, 887回)を目標に掲げ毎月実績確認を行い、その都度収益増減の原因を明らかにする。</u> ② <u>地域包括・居宅介護支援事業所との連携と春光台地区への広報活動を行い、新規利用者獲得を図る。</u>	継続	米澤	深瀬
11	(6)	適正利益の確保	① <u>目標介護保険収入を39,398,329円(令和3年度 37,187,305円)月間訪問件数902回</u>	継続	米澤	伊藤

令和4年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 鷹栖町ヘルパーステーションさつき苑

〔評価基準〕S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標 との連動	取組み事項	取り組み内容	実施 担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間 評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール (達成目標)	最終 評価	評価内容
1	(1)	根拠に基づくサービス提供	①丁寧なアセスメントを行い、課題・ニーズを的確に捉え、自立支援の視点から、質の高いサービスを提供する。	米澤 上野	計画	← 居宅支援計画更新後2週間以内にケアプランを更新する →							← 居宅支援計画更新後2週間以内にケアプランを更新する →						従来のプランを見直し、利用者の自立支援を具体的に盛り込んだプランを速滞なく作成する。		
			②訪問後の報告を受け、次回訪問時の留意点をヘルパーに伝え、きめの細かいサービスを提供する。	米澤 上野	計画	← 報告、連絡、相談を迅速に行う →							← 報告、連絡、相談を迅速に行う →						ミーティングの内容を業務日誌に記録し、把握した課題を放置せず、改善への取り組み、評価を行うことで利用者の生活改善が実現できる。		
			③サービス提供後の効果を把握するため、モニタリングを実施し、サービス提供の効果や変更の必要性について確認する。	米澤 上野	計画	← モニタリングを遅れずに実施する →							← モニタリングを遅れずに実施する →						毎月モニタリングと都度ケアマネジャーへの報告を行い、改善点があれば速やかに居宅支援事業所、地域包括支援センターに提案する。		
			④利用者の残存能力を活かす関わりを、ヘルパーが共通理解するために、自立支援を具体化したサービス手順書を作成する。	米澤 深瀬	計画	← 手順書見直し →							← 手順書見直し →						訪問介護計画書に手順書を載せ、利用者の「できること」を盛り込み、ヘルパーの支援のポイントを示す手順書を作成する。新規利用者の手順書は初回訪問から3回目の訪問時には作成できる。		
			⑤定期的な同行訪問を行い、ケアの質の向上やサービス内容の見直しを図ることで業務改善を図る。	米澤 深瀬	計画	同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問		同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問後、サービス内容の見直しが必要かを迅速に判断し1週間内にケアマネへ報告、検討ができる。		
			⑥ヘルパー会議で支援の困難な利用者についてカンファレンスを行い、サービス提供方法の詳細について意見交換し、標準化を図る。	米澤 深瀬	計画	← カンファレンスの開催 →							← カンファレンスの開催 →						支援の困難な利用者のケースカンファレンスを開催し、課題を改善できる。(年間20件以上)		
2	(1)	サービスの内容及び提供方法の標準化	⑦利用者の残存能力を活かす関わりを、ヘルパーが共通理解するために、自立支援を具体化したサービス手順書を作成する。	米澤 深瀬	計画	← 手順書見直し →							← 手順書見直し →						訪問介護計画書に手順書を載せ、利用者の「できること」を盛り込み、ヘルパーの支援のポイントを示す手順書を作成する。新規利用者の手順書は初回訪問から3回目の訪問時には作成できる。		
			⑧定期的な同行訪問を行い、ケアの質の向上やサービス内容の見直しを図ることで業務改善を図る。	米澤 深瀬	計画	同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問		同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問後、サービス内容の見直しが必要かを迅速に判断し1週間内にケアマネへ報告、検討ができる。		
			⑨ヘルパー会議で支援の困難な利用者についてカンファレンスを行い、サービス提供方法の詳細について意見交換し、標準化を図る。	米澤 深瀬	計画	← カンファレンスの開催 →							← カンファレンスの開催 →						支援の困難な利用者のケースカンファレンスを開催し、課題を改善できる。(年間20件以上)		
			⑩毎月の会議内で介助・支援方法について、具体的に伝え学ぶことで安全で安心できる技術を習得する。	米澤 深瀬	計画	実施	実施	実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施	個別の支援方法を具体的に学ぶことで、利用者が安全で安心できる技術を各ヘルパーが習得し提供できる。		
			⑪ケアマネ・家族と連携して、システムを活用し、健康管理を行い、基礎体力の維持向上を図る。	伊藤 米澤	計画	← ヘルパー会議で体調に関する情報交換 →							← ヘルパー会議で体調に関する情報交換 →						健康状況を把握して入院件数を月間3名以下にする。		
			⑫茶話会や個別交流会を継続して行い、職員自身が地域を知り、学び、地域住民の潜在しているニーズを把握する。	伊藤 米澤	計画	茶話会準備	茶話会 (高住R1-R2)	茶話会 (新元台地R)					個別	個別	個別	個別	個別	個別	年3回の茶話会と個別での交流会を開催し、参加延べ人数50名を目標とする。各地域の住民と交流会を行うことで、事業所を知っていただき関係性を築ける。(各回・目標参加者17名)		
3	(2)	地域・家族との関係強化の取り組み	⑬利用者の残存能力を活かす関わりを、ヘルパーが共通理解するために、自立支援を具体化したサービス手順書を作成する。	米澤 深瀬	計画	← カンファレンスの開催 →							← カンファレンスの開催 →						支援の困難な利用者のケースカンファレンスを開催し、課題を改善できる。(年間20件以上)		
			⑭定期的な同行訪問を行い、ケアの質の向上やサービス内容の見直しを図ることで業務改善を図る。	米澤 深瀬	計画	同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問		同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問後、サービス内容の見直しが必要かを迅速に判断し1週間内にケアマネへ報告、検討ができる。		
			⑮ヘルパー会議で支援の困難な利用者についてカンファレンスを行い、サービス提供方法の詳細について意見交換し、標準化を図る。	米澤 深瀬	計画	← カンファレンスの開催 →							← カンファレンスの開催 →						支援の困難な利用者のケースカンファレンスを開催し、課題を改善できる。(年間20件以上)		
			⑯毎月の会議内で介助・支援方法について、具体的に伝え学ぶことで安全で安心できる技術を習得する。	米澤 深瀬	計画	実施	実施	実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施	個別の支援方法を具体的に学ぶことで、利用者が安全で安心できる技術を各ヘルパーが習得し提供できる。		
			⑰ケアマネ・家族と連携して、システムを活用し、健康管理を行い、基礎体力の維持向上を図る。	伊藤 米澤	計画	← ヘルパー会議で体調に関する情報交換 →							← ヘルパー会議で体調に関する情報交換 →						健康状況を把握して入院件数を月間3名以下にする。		
			⑱茶話会や個別交流会を継続して行い、職員自身が地域を知り、学び、地域住民の潜在しているニーズを把握する。	伊藤 米澤	計画	茶話会準備	茶話会 (高住R1-R2)	茶話会 (新元台地R)					個別	個別	個別	個別	個別	個別	年3回の茶話会と個別での交流会を開催し、参加延べ人数50名を目標とする。各地域の住民と交流会を行うことで、事業所を知っていただき関係性を築ける。(各回・目標参加者17名)		
4	(2)	利用者・家族・職員との交流促進	⑳利用者の残存能力を活かす関わりを、ヘルパーが共通理解するために、自立支援を具体化したサービス手順書を作成する。	米澤 深瀬	計画	← カンファレンスの開催 →							← カンファレンスの開催 →						支援の困難な利用者のケースカンファレンスを開催し、課題を改善できる。(年間20件以上)		
			㉑入院中の利用者へ見舞いのカードを送り、退院後の不安への軽減を図る。	米澤 深瀬	計画	カード送付	カード送付	カード送付	カード送付	カード送付	カード送付		カード送付	カード送付	カード送付	カード送付	カード送付	カード送付	入院中の利用者を見舞い、利用者・家族を励まし、利用再開ができる。(1入院に1回)		
			㉒長寿を迎えられる利用者を対象に、祝いを開催し感謝を伝える。	米澤 深瀬	計画	← カンファレンスの開催 →							← カンファレンスの開催 →						支援の困難な利用者のケースカンファレンスを開催し、課題を改善できる。(年間20件以上)		
			㉓利用者の残存能力を活かす関わりを、ヘルパーが共通理解するために、自立支援を具体化したサービス手順書を作成する。	米澤 深瀬	計画	← カンファレンスの開催 →							← カンファレンスの開催 →						支援の困難な利用者のケースカンファレンスを開催し、課題を改善できる。(年間20件以上)		
			㉔入院中の利用者へ見舞いのカードを送り、退院後の不安への軽減を図る。	米澤 深瀬	計画	カード送付	カード送付	カード送付	カード送付	カード送付	カード送付		カード送付	カード送付	カード送付	カード送付	カード送付	カード送付	入院中の利用者を見舞い、利用者・家族を励まし、利用再開ができる。(1入院に1回)		
			㉕長寿を迎えられる利用者を対象に、祝いを開催し感謝を伝える。	米澤 深瀬	計画	← カンファレンスの開催 →							← カンファレンスの開催 →						支援の困難な利用者のケースカンファレンスを開催し、課題を改善できる。(年間20件以上)		
5	(3)	専門性と介護技術の向上	㉖利用者の残存能力を活かす関わりを、ヘルパーが共通理解するために、自立支援を具体化したサービス手順書を作成する。	米澤 上野	計画	内部研修 参加	外部研修 参加	内部研修 参加	内部研修 参加	内部研修 参加	外部研修 参加		内部研修 参加	内部研修 参加	内部研修 参加	内部研修 参加	内部研修 参加	内部研修 参加	年2回以上、外部研修に参加し、事業所内報告会で他のヘルパーと知識を共有する。		
			㉗ヘルパー研修を通し、各自が講師を行うことで知識と技術の習得を図る。	米澤 上野	計画	← ヘルパー会議の開催 →							← ヘルパー会議の開催 →						ヘルパー会議を月1回開催し、他事業所と連携し、利用者ニーズに即したサービスを提供する。居宅・包括に対しサービス向上について年間10件以上の提案ができる。		
			㉘自立支援を行い、利用者のADL・意欲・QOLの向上を図る。	米澤 深瀬	計画	準備/実施	準備/実施	実施	実施	準備/実施	準備/実施		準備/実施	実施		実施	実施	実施	講師をするために必要な情報や準備を円滑に行い、自分自身がしっかりと理解し伝えることができる。		
			㉙身体・精神的虐待ゼロを誓い、適切な接遇態度を身につけ安全確保に徹したサービスを提供する。	米澤 深瀬	計画	← カンファレンスの開催 →							← カンファレンスの開催 →						支援の困難な利用者のケースカンファレンスを開催し、課題を改善できる。(年間20件以上)		
			㉚「業務日誌」を活用し、報告・連絡・相談を徹底することにより、注意事項の確認もれを防ぐ。	米澤 深瀬	計画	← 「業務日誌」の活用 →							← 「業務日誌」の活用 →						訪問前の指示、訪問後の報告、連絡を密にすることできめ細かい、サービスの提供ができる。		
			㉛利用者の残存能力を活かす関わりを、ヘルパーが共通理解するために、自立支援を具体化したサービス手順書を作成する。	米澤 深瀬	計画	← カンファレンスの開催 →							← カンファレンスの開催 →						支援の困難な利用者のケースカンファレンスを開催し、課題を改善できる。(年間20件以上)		
6	(3)	組織的・総合的な安全確保の推進	㉜利用者の残存能力を活かす関わりを、ヘルパーが共通理解するために、自立支援を具体化したサービス手順書を作成する。	米澤 深瀬	計画	← カンファレンスの開催 →							← カンファレンスの開催 →						支援の困難な利用者のケースカンファレンスを開催し、課題を改善できる。(年間20件以上)		
			㉝ヘルパー研修を通し、各自が講師を行うことで知識と技術の習得を図る。	米澤 上野	計画	← ヘルパー会議の開催 →							← ヘルパー会議の開催 →						ヘルパー会議を月1回開催し、他事業所と連携し、利用者ニーズに即したサービスを提供する。居宅・包括に対しサービス向上について年間10件以上の提案ができる。		
			㉞自立支援を行い、利用者のADL・意欲・QOLの向上を図る。	米澤 深瀬	計画	準備/実施	準備/実施	実施	実施	準備/実施	準備/実施		準備/実施	実施		実施	実施	実施	講師をするために必要な情報や準備を円滑に行い、自分自身がしっかりと理解し伝えることができる。		
			㉟身体・精神的虐待ゼロを誓い、適切な接遇態度を身につけ安全確保に徹したサービスを提供する。	米澤 深瀬	計画	← カンファレンスの開催 →							← カンファレンスの開催 →						支援の困難な利用者のケースカンファレンスを開催し、課題を改善できる。(年間20件以上)		
			㊱「業務日誌」を活用し、報告・連絡・相談を徹底することにより、注意事項の確認もれを防ぐ。	米澤 深瀬	計画	← 「業務日誌」の活用 →							← 「業務日誌」の活用 →						訪問前の指示、訪問後の報告、連絡を密にすることできめ細かい、サービスの提供ができる。		
			㊲利用者の残存能力を活かす関わりを、ヘルパーが共通理解するために、自立支援を具体化したサービス手順書を作成する。	米澤 深瀬	計画	← カンファレンスの開催 →							← カンファレンスの開催 →						支援の困難な利用者のケースカンファレンスを開催し、課題を改善できる。(年間20件以上)		
7	(4)	サービス評価と自己研鑽の取り組み	㊳より質の高いサービス提供ができるよう、各自が目標を立て、会議や研修を通じて個々の能力や技術の向上を図る。	米澤 伊藤	計画	ヘルパー 研修	ヘルパー 研修	ヘルパー 研修	ヘルパー 研修	ヘルパー 研修	ヘルパー 研修		個別研修 ヘルパー研 修	個別研修 ヘルパー研 修	個別研修	個別研修	個別研修	効果測定	効果測定を年1回行い、自分が立てた目標に対しての評価を行うことで自己研鑽ができる。		
			㊴利用者満足度調査を実施し、広報「さつき」で情報公表する。	米澤 伊藤	計画	← カンファレンスの開催 →							← カンファレンスの開催 →						支援の困難な利用者のケースカンファレンスを開催し、課題を改善できる。(年間20件以上)		
			㊵より質の高いサービス提供ができるよう、各自が目標を立て、会議や研修を通じて個々の能力や技術の向上を図る。	米澤 伊藤	計画	ヘルパー 研修	ヘルパー 研修	ヘルパー 研修	ヘルパー 研修	ヘルパー 研修	ヘルパー 研修		個別研修 ヘルパー研 修	個別研修 ヘルパー研 修	個別研修	個別研修	個別研修	効果測定	効果測定を年1回行い、自分が立てた目標に対しての評価を行うことで自己研鑽ができる。		
			㊶利用者満足度調査を実施し、広報「さつき」で情報公表する。	米澤 伊藤	計画	← カンファレンスの開催 →							← カンファレンスの開催 →						支援の困難な利用者のケースカンファレンスを開催し、課題を改善できる。(年間20件以上)		
			㊷より質の高いサービス提供ができるよう、各自が目標を立て、会議や研修を通じて個々の能力や技術の向上を図る。	米澤 伊藤	計画	ヘルパー 研修	ヘルパー 研修	ヘルパー 研修	ヘルパー 研修	ヘルパー 研修	ヘルパー 研修		個別研修 ヘルパー研 修	個別研修 ヘルパー研 修	個別研修	個別研修	個別研修	効果測定	効果測定を年1回行い、自分が立てた目標に対しての評価を行うことで自己研鑽ができる。		
			㊸利用者満足度調査を実施し、広報「さつき」で情報公表する。	米澤 伊藤	計画	← カンファレンスの開催 →							← カンファレンスの開催 →						支援の困難な利用者のケースカンファレンスを開催し、課題を改善できる。(年間20件以上)		

令和4年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 鷹栖町ヘルパーステーションさつき苑

〔評価基準〕S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標 との連動	取組み事項	取り組み内容	実施 担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間 評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール (達成目標)	最終 評価	評価内容
8	(5)	職場環境の改善	①面談や訪問記録を通し、業務や人間関係等、抱える問題に気づき、感情労働への配慮・精神衛生・チーム力の向上を図る。	米澤 上野	計画	訪問記録の活用		面談	訪問記録の活用					面談	訪問記録の活用				訪問記録から困難ケースを把握し、ヘルパーに日常的に声をかけることで悩みや課題の早期相談・解決への糸口を探り、深刻化を予防する。		
			②書庫・事業所内の整理整頓を行い、業務効率をアップさせる。	米澤 上野	計画	書庫整理	手帳書確認 配置図作成	手帳書確認 配置図作成	マニュアル評価 再作成	手帳書確認 配置図作成	手帳書確認 配置図作成	手帳書確認 配置図作成	書庫整理	手帳書確認 配置図作成	手帳書確認 配置図作成	手帳書確認 配置図作成	手帳書確認 配置図作成	手帳書・配置 図評価	ファイルや書類の整理整頓を行い、業務の効率を上げる。 (停止者の事務処理等のマニュアル化を図り、1ヶ月内に受理を行う)		
9	(4)	社内業務の基準化・標準化・効率化	①実績管理の責任・手順を明確にし、月末業務の効率を上げ、請求ミスをゼロにする。	伊藤 米澤	計画	マニュアルの見直し													日々の訪問チェックを確実にし、月末業務の負担を軽減し、請求ミスをゼロにする。		
	(4)	社内業務の基準化・標準化・効率化	②ヘルパー車の管理・業務のマニュアル化を行うことで、効率的に統一した業務が行えるようにする。	伊藤 米澤	計画	公用車の管理 マニュアル作成	公用車の管理	公用車の管理 業務管理	公用車の管理	公用車の管理	公用車の管理	マニュアルの見直し	公用車の管理	公用車の管理				マニュアルの評価	公用車の管理手順、業務の手順を作成する。		
	(4)	社内業務の基準化・標準化・効率化	③介護記録のIT・ICTの導入・促進し全職員が活用できるようにする。	深澤 米澤	計画	介護記録のIT 化導入													介護記録のIT・ICT化を導入・促進し全職員が活用できる。		
10	(5)	利用者獲得のための営業・広報活動を強化する	①月実人数87人(R3, 85人)新規利用者50人(R3, 32人)月間述べ訪問回数902回(R3, 887回)を目標に掲げ毎月実績確認を行い、その都度収益増減の原因を明らかにする。	米澤 上野	計画		具体策 検討		具体策 検討				具体策 検討		具体策 検討				茶話会で訪問介護についてのPRを行い、ヘルパー業務の周知を図り、新規利用者31名に繋げる。(R2新規32名)。		
	(5)	利用者獲得のための営業・広報活動を強化する	②地域包括・居宅介護支援事業所との連携と、春光台地区への広報活動を行い、新規利用者獲得を図る。	米澤 伊藤	計画			茶話会	茶話会	茶話会									月の訪問件数目標902回/月 目標収益39,398,329円を達成する。		
11	(6)	適正収益の確保	①目標収益を39,398,329円(前年度37,187,305円)月間訪問件数902件に掲げ、加算取得・茶話会活動を展開する。目標達成に向け、会議で実績報告を行い、サービスの不足している状況がないか確認する。	米澤 伊藤	計画			茶話会	茶話会	茶話会									月の訪問件数目標902回/月 目標収益39,398,329円を達成する。		
				実施																	

事業所名(部署)

地域介護予防活動支援事業 ・ 地域リハビリテーション活動支援事業 ・ 介護予防普及啓発支援事業 ・ 法人自主事業

1. 基本方針

基本方針(さつき会)

「良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力を創る」

総合事業 基本目標(鷹栖町)

「高齢者が生涯活躍し、助け合い・支えあいによるお互いさまのまちづくり」

2. 重点目標

- (1) 住民が主体となって参加し、住民が住民を支える仕組みを作り、地域に根差した「楽しい」介護予防活動を推進
- (2) 地域における介護予防の取り組みの強化を図る
- (3) 医学的根拠に基づいた運動指導等を実施
- (4) 根拠に基づいた知識を住民に教育し、ヘルスリテラシーを高める

3. 事業所における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
1	(1)	① あったかすりハビリ体操の普及・住民主体の通いの場の立ち上げ支援 ② あったかすりハビリ体操指導士の活動支援 ③ あったかすりハビリ体操指導士の活動意欲促進 ④ あったかすりハビリ体操指導士の養成 ⑤ サーキットトレーニングの運営 ⑥ 利用促進のためのイベント開催 ⑦ 新規利用者への広報活動 ⑧ 学会発表 <u>⑨ 鷹栖町での取り組みを発信</u> (地域介護予防活動支援事業)	① 体操指導士による住民主体のあったかすりハビリ体操教室を月10団体運営する(R3年度平均6.6団体/月) ② 住民主体の通いの場の活動支援(2ヶ月に1回) ③ 体操指導士のための定期的なミーティング(年2回)や復習会(月1回)の開催 ④ あったかすりハビリ体操指導士養成講座を開催し、新規体操指導士を10名養成する(R3年度未実施) <u>⑤ 月実利用人数80名を目標に、サーキットトレーニングでの運動指導を行う(R3年度平均55.6名/月)</u> ⑥ コレカラ利用促進のためのイベントを年3回開催し、それぞれ3名の新規利用登録につなげる(無料体験会、男の運動教室等) ⑦ 鷹栖町と協働して、介護保険証交付時にコレカラ利用促進のための広報活動を月1回実施する ⑧ 北海道理学療法学会での成果発表 <u>⑨ シンポジウムにシンポジストとして参加(新規)</u>	新規／継続	大河原	大矢
2	(2)	① 身体機能評価の実施 ② 包括支援センターからの相談対応 ③ フレイル会議の開催 ④ 老人会における介護予防活動 <u>⑤ 町の特定健診での身体機能評価</u> ⑥ 学会発表 (地域リハビリテーション活動支援事業)	① 月3名を目標に、コレカラ新規利用者に身体機能評価を実施し、適切な運動内容の指導(R3年度平均0.75名) ② 月1件を目標に、地域包括支援センターからの相談対応を行う(R3年度1件) ③ フレイル会議を3ヶ月に1回開催する(理学療法士、包括支援センター、保健推進係) ④ 年5団体を目標に、老人会に出向き、体力測定会や健康講話の実施(R3年度0団体) <u>⑤ 町の特定健診において身体機能評価やフレイルチェックを実施(新規)</u> ⑥ 日本予防理学療法学会での成果発表	新規／継続	大河原	大矢

3. 事業所における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
3	(3)	① レッドコード教室の運営 ② コレカラサポーターの活動支援 ③ フレイル対策の実施 ④ <u>口腔機能トレーニングの実施</u> ⑤ <u>毎日運動プロジェクトの実施</u> ⑥ <u>フレイルに関する情報の発信</u> (介護予防普及啓発支援事業)	① 月実利用人数62名を目標に、レッドコード教室での運動指導を行う(<u>R3年度平均60.3名</u>) ② <u>月実人数5名</u> を目標に、コレカラサポーターの活動再開、復習会の実施(<u>R3年度6名</u>) ③ フレイルに関する講習会を年2回開催する ④ <u>月実人数10名を目標に、くちトレブースを開設</u> ⑤ <u>年2回1ヶ月間、運動習慣化に向けて、公式LINEにて運動プログラムを配信する(新規)</u> ⑥ <u>フレイルに関する情報を月1回公式LINEにて配信(新規)</u>	新規/継続	大河原	大矢
4	(4)	① 介護予防に関する基本的な知識の普及啓発 ② 健康に関する自己管理の推進 ③ 互助活動の推進 ④ 公式LINEアカウントの運用 ⑤ <u>開設5周年記念品の作成</u> (法人自主事業)	① 月実人数60名を目標に、レッドコード教室にてヘルスリテラシー講座の実施(<u>R3年度未実施</u>) ② 月実人数10名の継続利用を目標に、健康手帳の配布および利用促進する(<u>R3年度7名</u>) ③ ボランティア交流会(目標20名)やボランティアによる大掃除(目標15名)等の実施(<u>R3年度大掃除1回実施、17名参加</u>) ④ <u>登録者100名</u> を目標に、コレカラの公式LINEアカウントを運用する ⑤ <u>開設5周年記念品を作成し、100名の利用者へ感謝の気持とともに贈呈する(新規)</u>	新規/継続	大河原	大矢

令和4年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名		地域介護予防活動支援事業・地域リハビリテーション活動支援事業 介護予防普及啓発支援事業・法人自主事業																〔評価基準〕S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どりの結果 C:取り組んだ D:全くアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。							
事業計画 No.	重点目標 との運動	取組み事項	取組み内容	実施 担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間 評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール (達成目標)	最終 評価					
1	(1)	① あったかすリハビリ体操の普及・住民主体の通いの場の立ち上げ支援 ② あったかすリハビリ体操指導士の活動支援 ③ あったかすリハビリ体操指導士の活動意欲促進 ④ あったかすリハビリ体操指導士の養成 ⑤ サーキットトレーニングの運営 ⑥ 利用促進のためのイベント開催 ⑦ 新規利用者への広報活動 ⑧ 学会発表 ⑨ 鷹栖町での取り組みを発信 (地域介護予防活動支援事業)	①体操指導士による住民主体のあったかすリハビリ体操教室を月10団体運営する	大河原大矢	計画 実施							➤							➤	指導団体 10団体/月					
			② 住民主体の通いの場の活動支援(2ヶ月に1回)	大河原大矢	計画 実施															教室支援 1回/2ヶ月					
			③ 体操指導士のための定期的なミーティング(年2回)や復習会(月1回)の開催	大河原大矢	計画 実施	ミーティング	復習会開催	復習会開催	復習会開催	ミーティング	復習会開催		復習会開催	復習会開催	オンライン交流会参加	復習会開催	オンライン交流会参加	復習会開催		ミーティング 2回/年 復習会 1回/月					
			④あったかすリハビリ体操指導士養成講座を開催し、新規体操指導士を10名養成する	大河原大矢	計画 実施								チラシ作成	チラシ配布							新規参加者 10名				
			⑤ 月実利用人数80名を目標に、サーキットトレーニングでの運動指導を行う	大河原大矢	計画 実施																➤	実利用人数 80名/月			
			⑥ コレカラ利用促進のためのイベントを年3回開催し、それぞれ3名の新規利用登録につなげる	大河原大矢	計画 実施	はじめてのレッドコード教室	はじめてのレッドコード教室		男のレッドコード教室	男のレッドコード教室	無料体験会											新規登録者 3名/イベント			
			⑦ 鷹栖町と協働して、介護保険証交付時にコレカラ利用促進のための広報活動を月1回実施する	大河原大矢	計画 実施	文書配布	文書配布	文書配布	文書配布	文書配布	文書配布	文書配布		文書配布	文書配布	文書配布	文書配布	文書配布	文書配布	文書配布	文書配布 1回/月				
			⑧ 北海道理学療法学会での成果発表	大河原大矢	計画 実施			学会発表														成果発表			
			⑨ シンポジウムにシンポジストとして参加	大河原大矢	計画 実施			北海道PT学会								全国リハケア研究大会						取り組み発信			
			2	(2)	① 身体機能評価の実施 ② 包括支援センターからの相談対応 ③ フレイル会議の開催 ④ 老人会における介護予防活動 ⑤ 町の特定健診での身体機能評価 ⑥ 学会発表 (地域リハビリテーション活動支援事業)	①月3名を目標に、コレカラ新規利用者に身体機能評価を実施し、適切な運動内容の指導	大河原大矢	計画 実施							➤							➤	評価人数 3名/月		
						②月1件を目標に、地域包括支援センターからの相談対応を行う	大矢大河原	計画 実施								➤							➤	相談件数 1件/月	
						③ フレイル会議の開催	大矢大河原	計画 実施	会議開催			会議開催					会議開催			会議開催				会議 1回/3ヶ月	
						④ 年5団体を目標に、老人会に出向き、体力測定会や健康講話の実施	大河原大矢	計画 実施								➤							➤	実施団体 5団体/年	
						⑤ 町の特定健診において身体機能評価やフレイルチェックを実施	大河原大矢	計画 実施			特定健診														評価実施
⑥日本予防理学療法学会・日本地域理学療法学会での成果発表	大河原大矢	計画 実施																				成果発表			

令和4年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名		地域介護予防活動支援事業・地域リハビリテーション活動支援事業 介護予防普及及啓発支援事業・法人自主事業																			〔評価基準〕S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どりの結果 C:取り組んだ D:全くアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。									
事業計画 No.	重点目標 との連動	取組み事項	取組み内容	実施 担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間 評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール (達成目標)	最終 評価										
3	(3)	① レッドコード教室の運営 ② コレカラサポーターの活動支援 ③ フレイル対策の実施 ④ 口腔機能トレーニングの実施 ⑤ 毎日運動プロジェクトの実施 ⑥ フレイルに関する情報の発信 (介護予防普及及啓発支援事業)	①月実利用人数62名を目標に、レッドコード教室での運動指導を行う	大河原 大矢	計画 実施	10月上旬 教室開催 参加人数 名		参加人数 名	参加人数 名	参加人数 名	参加人数 名	申込み 参加人数 名		10月下旬 教室開催 参加人数 名		参加人数 名	参加人数 名	参加人数 名	申込み 参加人数 名	参加人数 62名/月										
			②月実人数5名を目標に、コレカラサポーターの活動再開、復習会の実施	大河原 大矢	計画 実施	復習会 参加人数 名	復習会 参加人数 名	活動再開 活動人数 名		活動人数 名	活動人数 名	活動人数 名				活動人数 名	活動人数 名	活動人数 名	活動人数 名	活動人数 名	活動人数 5名/月									
			③フレイルに関する講習会を年2回開催する	大河原 大矢	計画 実施			講習会開催 参加人数 名										講習会開催 参加人数 名			参加人数 10名/講座									
			④月実人数10名を目標に、くちトレブースを開設	大河原 大矢	計画 実施		動画制作						周知		ブース開設 参加人数 名						参加人数 10名/月									
			⑤年2回1ヶ月間、運動習慣化に向けて、公式LINEにて運動プログラムを配信する	大河原 大矢	計画 実施			配信 参加人数 名								配信 参加人数 名					参加人数 20名/回									
			⑥フレイルに関する情報を月1回公式LINEにて配信	大河原 大矢	計画 実施																配信 1回/月									
			4	(4)	① 介護予防に関する基本的な知識の普及啓発 ② 健康に関する自己管理の推進 ③ 互助活動の推進 ④ 公式LINEアカウントの運用 ⑤ 開設5周年記念品の作成 (法人自主事業)	①月実人数60名を目標に、レッドコード教室にてヘルスリテラシー講座の実施	大河原 大矢	計画 実施	10月上旬 教室開催 参加人数 名							10月下旬 教室開催 参加人数 名						参加人数 60名/月								
						②月実人数10名の継続利用を目標に、健康手帳の配布および利用促進する	大河原 大矢	計画 実施																継続利用 10名/月						
						③ボランティア交流会(目標20名)やボランティアによる大掃除(目標15名)等の実施	大河原 大矢	計画 実施		大掃除 参加人数 名				ろうそくもらい 参加人数 名						大掃除 参加人数 名		交流会 参加人数 名		大掃除 15名/1回 交流会 20名/1回						
						④登録者100名を目標に、コレカラの公式LINEアカウントを運用する	大河原 大矢	計画 実施																登録者数 100名						
						⑤開設5周年記念品を作成し、100名の利用者へ感謝の気持とともに贈呈する	大河原 大矢	計画 実施		贈呈 贈呈人数 名										贈呈 贈呈人数 名				贈呈人数 100名						

令和4年度 行事・研修予定表

[illegible]

令和4年度 ブログ当番表

[illegible]